

beatサービス

beat-box4



ユーザーズガイド

Microsoft、Windows、MS-DOS、および Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Apple、Mac、Mac OS、Macintosh、および Finder は、Apple Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

JavaScript は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

サイボウズは、サイボウズ株式会社の登録商標です。

リモートメールは、株式会社 fonfun の商標です。

その他の製品名、会社名は、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

万一本体の記憶媒体（ハードディスク等）に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータ等が消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この取扱説明書のなかで  と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

ご注意

- ①本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
- ②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
- ④本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
- ⑤本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

XEROX、およびそのロゴと“コネクティング・シンボル”のマークは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

はじめに

このたびは beat/basic サービス、beat ブランチサービスをご利用いただき、まことにありがとうございます。

本書は、beat サービスをはじめてご使用になるかたを対象として、beat-box4 の設置や利用上の注意、beat サービスの紹介、利用する手順、困ったときの対処法などを記載しています。

beat-box4 は、電源のオン／オフの方法や設置条件などが通常のネットワーク機器と若干異なるため、必ず本書の指示に従ってください。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本サービスをご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

本書は、お使いのパーソナルコンピュータの環境、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。パーソナルコンピュータの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピュータ、OS、ネットワークシステムなどに付属した説明書をお読みください。

富士ゼロックス株式会社

マニュアル体系

beat サービスでは、次のマニュアルを用意しています。

マニュアル名	内容
ユーザーズガイド(本書)	beat-box の使用方法や注意事項、beat-box の beat 設定ページの利用までの手順、beat 設定ページを見ることができない場合のトラブル対処方法を説明しています。 beat-box の beat 設定ページを見ることができない場合は、『ユーザーズガイド』を活用して beat 設定ページを見ることができるようにしてください。 印刷物で提供しています。
設定手順書	beat サービスやオプションサービス導入時の設定方法を図入りで手順を追って説明しています。 次の2種類があります • beat/basic サービス設定手順書 • beat リモートアクセスサービス設定手順書 PDF で提供しています。
オンラインヘルプ	beat-box の beat 設定ページから閲覧できます。『ユーザーズガイド』の内容の大半は、オンラインヘルプにも記載されています。

beat サービスの機能や操作方法是、改良のために予告なく変更されることがあります。その変更は beat-noc(beat サービス専用のネットワークオペレーションセンター)を通じて自動アップデートされます。オンラインヘルプも、その機能や操作方法の変更と同時に、矛盾が生じないように自動アップデートされます。また、同様のガイドであっても、オンラインヘルプには、より詳しい内容が記載されることがあります。

マニュアルのダウンロードについて

beat-box のマニュアル(PDF 版)や、オンラインヘルプ(PDF 版)などは、beat お客様サポートサイトのマニュアル関連ページからダウンロードできます。

<http://www.net-beat.com/support/manual/>

beat お客様サポートサイトについて

beat お客様サポートサイトでは、beat サービスに関連する最新情報、困ったときの FAQ、メールでの問い合わせ先などの情報を掲載しています。

<http://www.net-beat.com/support/>

本書の使い方

本書の構成と表記について説明します。

■ 本書の構成

本書の構成は、次のとおりです。

安全上の注意

beat-box4 を安全かつ正常に利用していただくための警告や注意です。使用前に必ずお読みください。

beat-box 編

beat サービスのコンポーネントの1つである beat-box4 を利用していただくために必要なことを説明します。

1. 各部の名称と働き

beat-box4 のコネクタやLED インジケータ/LED ランプなどの働きについて説明します。

スタートアップ編

beat サービスを使い始めるために必要なステップを説明します。

2. beat サービスの紹介

beat サービスの概要を説明します。beat サービスを利用すると何ができるのかを理解していただくことを目的としています。

3. 利用ステップ

beat サービスを使い始めるまでに必要なステップを説明します。

PC 初期設定編

利用ステップの1つとして必要な、PC の初期設定の方法を説明します。

4. PC 初期設定の概要

PC 初期設定の概要について説明します。

5. Windows のネットワークの設定

Windows のネットワークの設定方法を説明します。

6. Windows の Web ブラウザーの設定

Windows の Web ブラウザーの設定方法を説明します。

7. Macintosh のネットワークの設定

Macintosh のネットワークの設定方法を説明します。

8. Macintosh の Web ブラウザーの設定

Macintosh の Web ブラウザーの設定方法を説明します。

困ったときの対処編

beat サービスのトラブルの対処方法について説明します。

9. 困ったときの対処の仕方

オンラインヘルプ、『ユーザーズガイド』（本書）、beat コンタクトセンターという 3 とおりの対処方法について説明します。

10. beat コンタクトセンターとは

beat コンタクトセンターの役割や受付時間などについて説明します。

11. beat-box と接続できない場合の対処

beat-box のオンラインヘルプを参照する場合の対処方法を説明します。

索引

索引ページです。

■ 本書の表記

本書の記号

本書では、次の記号を使用しています。

注記	一般的な注意事項を表します。
補足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参照	参照する事項があることを表します。
『 』	参照するマニュアル名を表します。 例：『設定手順書』を参照してください。
“ ”	入力する文字を表します。 例：“ipconfig”と入力します。
[]	ボタンや項目、メニューの選択項目など、クリックして選択できるもの、ダイアログボックス名を表します。 例：[スタート]ボタン、[ネットワーク]ダイアログボックス
< >	beat-box ごと、または利用者ごとに異なる文字列を表します。 例：<ご使用の beat-box のドメイン名>
[] > []	メニューに続くメニュー項目名、または順にクリックする項目名を表します。 例：[設定] > [beat-box 責任者管理] > [変更]

用語について

本書では、次の表記を使用しています。

お客様ドメイン	「ドメイン名登録申請書」または「レジストラ変更申請代行申込書」に指定されたお客様の独自のドメインです。独自のドメインを指定しない場合は、お客様ドメインは“intranet”になります。beat/idc を使用する場合、利用者に対応して自動的に作成されるメールアドレスのドメイン(“@”よりも右側)は、「お客様ドメイン」になります。
beat-box ドメイン	オプションサービスを使用する場合、beat-box ドメインにお客様ドメインのサブドメインが付加されることがあります。その場合は、別途お知らせします。
ポイント	メニューやアイコンなどにマウスポインターを合わせる操作を表します。 例：表示されたメニューから[設定]をポイントします。
Windows	Microsoft® Windows® Operating System を「Windows」と表記しています。

PC	パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
OS	オペレーティングシステムを「OS」と表記しています。

beat-box の名称について

beat サービスに使用する専用機器を beat-box と呼びます。お客様の使用される機器は、beat-box の第 4 世代機にあたる「beat-box4」です。

本書では、一般的に機器を差す場合は beat-box、機器固有の説明の場合は beat-box4 と表記しています。

安全にご利用いただくために

beat サービスでは、サービス提供のためにお客様の指定した場所に beat-box4 というネットワークサーバーを設置します。ここでは、beat-box4 や beat サービスを安全にご利用いただくため、使用上の注意事項を記載しています。beat-box4 の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、beat-box4 をご使用になる前に必ず最初に本章をお読みのうえ、正しくご利用ください。また、読み終わったあとも『ユーザーズガイド』（本書）は大切に保管し、ご不明な点がございましたときにもご利用ください。

■ 記号の説明

本章では次の記号を用います。

表示を無視した場合に発生する危害や損害の度合いを示す記号	
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があると思われる事項があることを示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負うことが想定される内容および物的損害の発生が想定される事項があることを示しています。

お守りいただくべき内容を示す記号（一例）	
 注意	この記号は、製品を取り扱う際に注意すべき事項があることを示しています。指示内容をよく読み、製品を安全にご利用ください。
 禁止	この記号は、行ってはならない禁止事項があることを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。
 強制	この記号は、必ず行っていただきたい指示事項があることを示しています。指示内容をよく読み、必ず実施してください。

■ 設置および移動に関する警告や注意

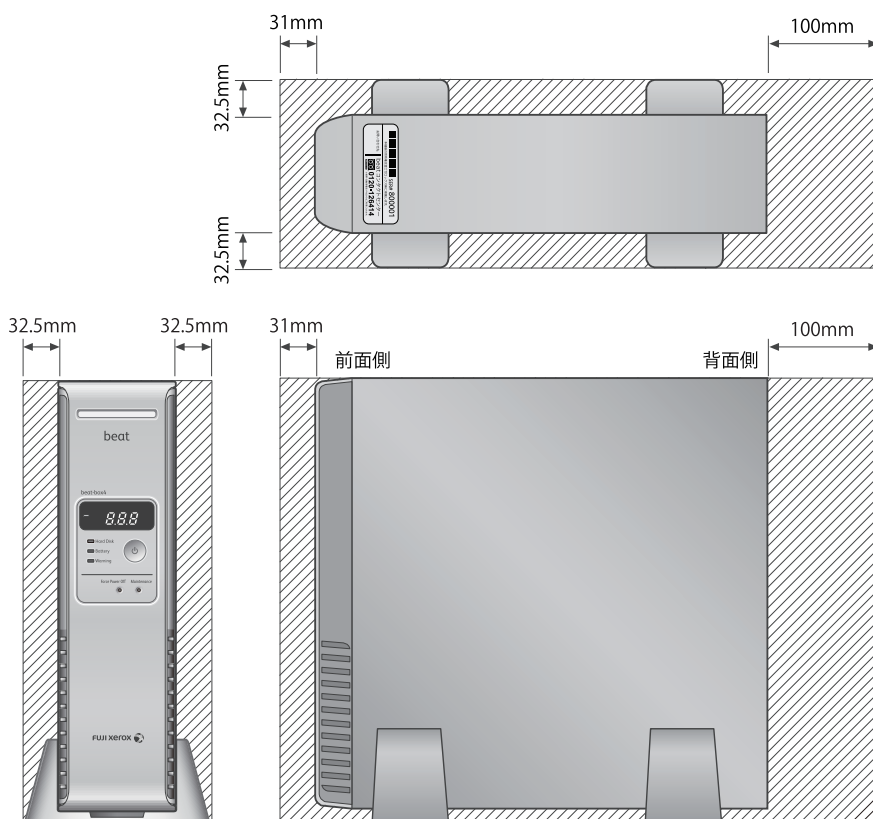
beat-box4 の設置は販売者の指定する技術者が行いますが、設置後の環境変化もありますので、ここでお願いする内容をご理解いただき、問題があれば弊社までご連絡ください。

また、お客様ご自身で beat-box4 を移動、移設または廃棄することはできません。beat-box4 を移動および移設する場合は必ず弊社までご連絡ください。また、beat サービスの契約解除後は必ず弊社に beat-box4 を返却してください。

警告

- ❌ beat-box4 の前面、背面には給排気口があります。給排気口をふさぐと内部に熱がこもり、誤動作、故障、火災の原因となるおそれがあります。なお、設置は弊社担当者におまかせください。
- ❌ beat-box4 は室温 5～40℃、湿度 20～80%の環境に設置してください。この範囲外の環境では、誤動作、故障の原因となるおそれがあります。
- ❌ beat-box4 を直射日光が当たる場所に設置しないでください。beat-box4 内部の温度上昇や、温度センサーが誤動作するおそれがあります。
- ❌ beat-box4 を縦置きに設置する場合は、必ずペDESTール(足)を装着してください。また、壁などから最低限以下の空間を設けてください。十分な空気の流れが確保できなくなり、内部に熱がこもり、誤動作、故障、火災の原因となるおそれがあります。
 - 背面と壁や棚板などとの最低距離: 100mm
 - 側面と壁や棚板などとの最低距離: 32.5mm
 - 前面と壁や棚板などとの最低距離: 31mm

※横置きで使用する場合は、弊社にご相談ください。



- ❗ 電源プラグは、定格電圧 100V で、定格電流 15A 以上のコンセントに差し込んでください。他の機器を同一のコンセントに差し込む場合は、電流の合計がコンセントの定格を越えないよう注意してください。また、たこ足配線をしないでください。発熱による火災や感電のおそれがあります。なお、本機の定格電源は 100V、0.67A となっています。
- ⊘ 電源の延長コードを使用する場合は、定格(125V、15A)未満のものは使用しないでください。発熱による火災のおそれがあります。
- ⊘ 付属の電源コード以外を使用しないでください。火災、感電、故障のおそれがあります。また、付属の電源コードを他の機器に使用しないでください。

⚠ 注意

- ❗ beat-box4 を移動するときは、弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。お客様独自での beat-box4 の移動や移設は故障の原因となります。
- ⊘ ストーブやヒーターなどの発熱器具に近い場所、揮発性可燃物やカーテンなどの燃えやすいものに近い場所には beat-box4 を設置しないでください。火災の原因となるおそれがあります。
- ⊘ 高温、多湿の場所や換気が悪くホコリの多い場所には beat-box4 を設置しないでください。発熱による火災や感電の原因となるおそれがあります。
- ❗ beat-box4 を水などの液体がかかるおそれがある場所では使用しないでください。たとえば、浴槽、洗面台、流し、洗濯機の近くでは使用しないでください。
- ❗ beat-box4 は、重さ 10kg 以上に耐えられる丈夫で水平な場所に設置してください。beat-box4 の転倒や落下などによりケガの原因となるおそれがあります。
- 🔌 機械を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードが傷つき、発熱による火災や感電の原因となるおそれがあります。

■ 利用上の警告や注意

⚠ 警告

- ❗ 電源のオン／オフの際には、本書の「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5)、「beat-box4 の電源オンの方法」(P.7)に従い、むやみに強制停止しないでください。ハードディスクの故障や、データの消失が高い確率で発生します。

- ❗ 次のようなときには、本書の「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5)に従って電源をオフにしてください。その後、弊社のbeatコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。そのまま使用続けると火災のおそれがあります。
 - beat-box4 から発煙したり、beat-box4 の外側が異常に熱くなったとき
 - 異常な音やにおいがするとき
 - beat-box4 の内部に水が入ったとき
- ⊘ ネジで固定されているパネルやカバーなどは、絶対に開けないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。また、beat-box4 の故障や、データの消失が生じるおそれがあります。
- ⊘ beat-box4 に内蔵しているハードディスクを抜いたり、他のハードディスクと入れ換えたり、上下を入れ換えたりしないでください。ハードディスクの故障や、データの消失が生じるおそれがあります。
- ⊘ beat-box4 のイーサネットポート(LAN、Internet)以外のコネクタースロットは利用できません。利用できないコネクタースロットに周辺機器を接続したり、利用できないスロットにカードを挿入したりしないでください。beat-box4 の故障、誤動作、データの消失の原因となることがあります。
- ⊘ beat-box4 を改造したり、部品を変更して使用しないでください。火災のおそれがあります。
- ⊘ beat-box4 の上に花瓶、植木鉢、コップなど水の入った容器を置かないでください。水がこぼれた場合、火災や感電のおそれがあります。
- ⊘ 機械の上に金属類を置かないでください。すき間から内部に、クリップやホチキスの針のような金属類や燃えやすいものが入り込むと、機械内部がショートし、火災や感電のおそれがあります。
- ❗ 万一、異物(金属片、水、液体)が内部に入った場合は、まず beat-box4 の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、弊社のbeat コンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電のおそれがあります。
- ⊘ 本サービスを航空機や列車等の交通制御、原子力発電所制御、人命に関わる医療機器制御などの極めて高い信頼性を要求される用途には使用しないでください。
- ⚡ 雷鳴が聞こえるときには、落雷による感電防止のためにスプリッタ、モデム、ルーター、電話の配線作業は行わないでください。
- ⚡ 電源プラグは絶対に濡れた手で触らないでください。感電のおそれがあります。
- ⚡ 電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)弊社のbeatコンタクトセンターまたは販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電のおそれがあります。

 電源プラグやコンセントに付着したホコリは、必ず取り除いてください。そのまま使用していると、湿気などにより表面に微小電流が流れ、発熱による火災のおそれがあります。

 電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したりしないでください。また重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、発熱による火災や感電のおそれがあります。

注意

 beat-box4 の電源を入れたままで電源プラグを抜き差ししないでください。アーキによりプラグが変形し、発熱による火災の原因となるおそれがあります。電源をオフにする方法は、本書の「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5)に従ってください。

 beat-box4 の上にものを載せないでください。機械のバランスが崩れて倒れたり、ものが落下してケガの原因となるおそれがあります。

 1 か月に一度は、次のような点検をしてください。なお、異常がある場合は弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店までご連絡ください。

- 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。
- 電源プラグに異常な発熱およびサビ、曲がりなどはありませんか。
- 電源プラグやコンセントに細かいホコリがついていませんか。
- 電源コードにき裂やすり傷などはありませんか。

 beat-box4 を水などの液体がかかるおそれがある場所では使用しないでください。たとえば、浴槽、洗面台、流し、洗濯機の近くでは使用しないでください。さらに、プールやサウナの付近など、湿気の多い環境では使用しないでください。

 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っばるとコードが傷つき、火災、感電の原因となるおそれがあります。

 機械の清掃および保守、故障の処置を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃や保守を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

 連休などで長期間、機械をご使用にならないときは、安全のために電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となるおそれがあります。

■ 内蔵バッテリーについて

本機に使用している2次電池(充電して繰り返し使用するもの)は、機器回収後、希少資源回収のため、材料としてのリサイクル、熱回収などの再資源化を行っています。

規制について

■ 電磁波障害対策自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信妨害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 受信障害について

ラジオの雑音、テレビなどの画面に発生するチラツキ、ゆがみがこの商品による影響と思われましたら、この商品の電源スイッチをいったん切ってください。

電源スイッチを切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、次の方法を組み合わせて障害を防止してください。

- 本機とラジオやテレビ双方の位置や向きを変えてみる。
- 本機とラジオやテレビ双方の距離を離してみる。
- この商品とラジオやテレビ双方の電源を別系統のものに変えてみる。
- 受信アンテナやアンテナ線の配置を変えてみる。(アンテナが屋外にある場合は電気店にご相談ください。)
- ラジオやテレビのアンテナ線を同軸ケーブルに変えてみる。

■ 高調波自主規制について

本機器は JIS C 61000-3-2(高調波電流発生限度値)に適合しています。

目次

はじめに	i
マニュアル体系	ii
本書の使い方	iii
安全にご利用いただくために	vii
規制について	xii
目次	xiii

beat-box 編

1. 各部の名称と働き	2
電源オフ時のbeat-box4 の状態	2
beat-box4 前面、上面	3
beat-box4 背面	4
セキュリティスロット	4
beat-box4 の電源オフの方法	5
電源オフの方法	5
強制停止による電源オフ	7
beat-box4 の電源オンの方法	7
動作温度について	8
起動/シャットダウンの時間について	8

スタートアップ編

2. beatサービスの紹介	10
目的	10
本章で用いられる用語について	10
サービス概要	11
複数拠点接続サービスとブランチサービスの比較	13
システム構成	14
機能と特長	15
(a) 基本ネットワークサービス	15
(b) 応用ネットワークサービス	16
(c) セキュリティ対策	18
(d) 安定化対策	20
(e) 簡単な運用と利用	22
(f) 複合機やプリンターとの連携機能	23
3. 利用ステップ	25
(A) PCの接続など	25
beat設定ページへの接続法	26
(B) 利用者やbeat-box責任者の登録など	26
(C) 共有機器の接続	27
(D) 電子メール	27
外部メール関係追加	27
メールクライアント設定	28
(E) WWWアクセス	29

(F) 共有フォルダー	29
(G) メーリングリスト	29
(H) グループ	30
(I) ホームページ公開	30
(J) 簡易グループウェア	31
(K) PCサポートソフトウェア	31
(L) レポーティング	31

PC 初期設定編

4. PC初期設定の概要	34
対応OSについて	34
設定内容について	35
設定の前に	35
5. Windowsのネットワークの設定	36
Windows XP	36
ネットワークの設定	36
ワークグループの設定	40
Windows Vista	42
ネットワークの設定	42
ワークグループの設定	46
Windows 7	49
ネットワークの設定	49
ワークグループの設定	54
6. WindowsのWebブラウザの設定	57
Internet Explorer 6.x	57
Internet Explorer 7.x	61
Internet Explorer 8.x	65
Firefox 3.x	69
7. Macintoshのネットワークの設定	71
Mac OS X	71
8. MacintoshのWebブラウザの設定	75
Safari 3.2.x、4.0.x	75
Firefox 3.x	76

困ったときの対処編

9. 困ったときの対処の仕方	80
オンラインヘルプ	80
beatコンタクトセンター	80
beat-boxと接続できない場合の対処	80
beatお客様サポートサイト	80
10. beatコンタクトセンターとは	81
beatコンタクトセンターからお客様へ	81
お客様からbeatコンタクトセンターへ	81
11. beat-boxと 接続できない場合の対処	83
目次	83
トラブル解決フロー	84

確認 1. beat設定ページを見る	85
Internet Explorerの場合	85
確認 2. 機器の接続方法	86
接続図、機器の接続方法	86
確認 3. IPアドレス取得状況の確認方法	87
Windows XPの場合	87
Windows Vistaの場合	88
Windows 7 の場合	89
Mac OS Xの場合	90
確認 4. beat-boxとの通信テスト方法	91
Windows XPの場合	91
Windows Vistaの場合	92
Windows 7 の場合	93
Mac OS Xの場合	94
確認 5. beat-boxのステータスコード	96
ステータスコード	96
控えておきましょう	98
索引	99



beat-box 編

1. 各部の名称と働き

【設置についてのお願い】

beat-box4 を縦置きに設置する場合は、必ずペDESTール(足)を装着してください。

beat-box4 の上に物を置かないでください。

※ペDESTールを外すと転倒や滑るおそれがあります。

※上に物を置かないでください。上に物を置くと筐体に変形するおそれがあります。また上に物を置くときの衝撃でハードディスクエラーが発生するおそれがあります。

※横置きで使用する場合は、弊社にご相談ください。

【電源についてのお願い】

beat-box4 は 365 日 24 時間動作させることを前提に設計されているので、次のような場合を除いて電源をオフにする必要はありません。

(1)移動などのために AC コンセントや本体から電源コードを抜く場合

(2)事前にわかっている停電などがある場合

※beat-box4 には停電対応充電電池が内蔵されているので、停電時には正常に停止し、電源供給が回復すると自動的に起動します。

しかし、毎日、毎週などの頻度で充電電池を使用すると劣化がすすみます。毎日、毎週のように頻繁にオフィスなどのブレーカー(電源)を落とされる場合は、4 ページ以降を参考にし、事前にbeat-box4 の電源をオフにしてください。この場合は電源復帰後も自動的に起動しませんので、手動で電源をオンにしてください。

■ 電源オフ時の beat-box4 の状態

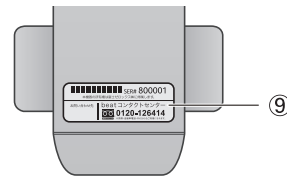
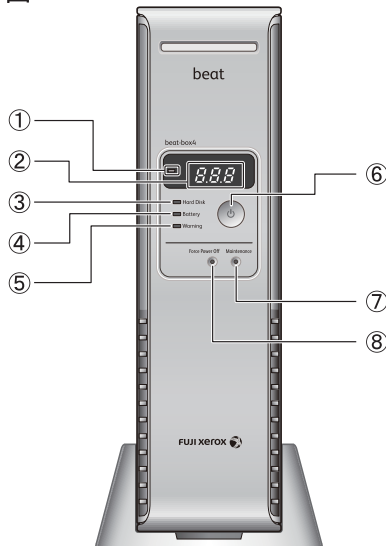
電源オフの状態の場合でも、電源コードを AC コンセントに挿していると、電源ランプが5秒に1回点滅します。

補足

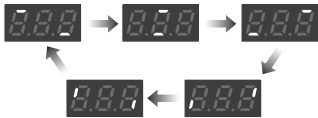
長時間起動しない場合は、電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

■ beat-box4 前面、上面

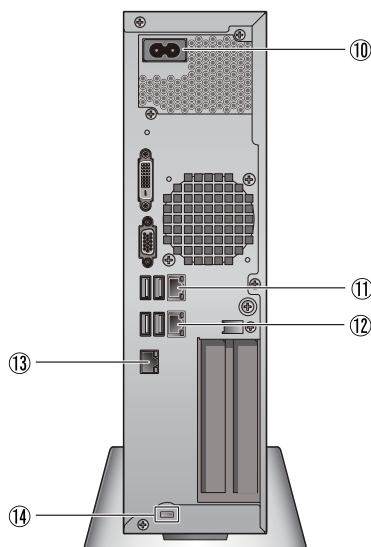
前面



上面

- ① 電源ランプ(緑色)
beat-box4 の電源がオンのときに点灯します。また、beat-box4 の電源がオフの場合でも、電源コードを AC コンセントに挿していると5秒に1回点滅します。
- ② LED インジケーター
通常は、時計回りにアニメーション表示します。
- 
- その他の場合はステータスコードが表示されます。
- 補足**
複数のステータスコードを同時に表示する必要がある場合、まず“- - -”を表示したあとに、1つまたは複数のステータスコードを順番に表示するというサイクルを繰り返します。
- 参照**
「ステータスコード」(P.96)
- ③ LED ランプ(緑色)「Hard Disk」
内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。
- ④ LED ランプ(黄色)「Battery」
停電対応充電電池で駆動している場合に点灯します。
- ⑤ LED ランプ(橙色)「Warning」
動作温度範囲外になった場合など、beat-box4 が正常稼働できないときに点灯または点滅します。
- ⑥ 電源スイッチ
beat-box4 の電源をオフ/オンします。
- 参照**
「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5)、
「beat-box4 の電源オンの方法」(P.7)
- ⑦ Maintenance スイッチ
通常は、このスイッチを操作する必要はありません。
- ⑧ Force Power Off スイッチ
通常は、このスイッチを操作する必要はありません。
- 参照**
「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5)
- ⑨ ラベル
beat-box4 のシリアル番号や beat コンタクトセンターの連絡先が記載されています。beat コンタクトセンターは、操作方法や障害対応の問い合わせ窓口です。

■ beat-box4 背面



- ⑩ 電源コード差込口
付属の電源コード以外は差し込まないでください。
- ⑪ イーサネットポート(LAN ポート)
ハブのポートとネットワークケーブルで接続します。付属の青いネットワークケーブルを使用します。
- ⑫ イーサネットポート(INTERNET ポート)
ADSL モデムなどとネットワークケーブルで接続します。付属の黄色いネットワークケーブルを使用します。
- ⑬ オプションポート
オプションをご契約いただいた場合に使用するポートです。
- ⑭ セキュリティースロット
beat-box4 の盗難を防ぐために、セキュリティケーブルを装着するためのスロットです。

参照

「セキュリティースロット」(P.4)

注記

その他のポートやスロットは利用できません。利用できないポートやスロットに、周辺機器を接続したりカードを挿入したりしないでください。誤動作やデータ消失のおそれがあります。

■ セキュリティースロット

beat-box4 の盗難を防ぐために、セキュリティケーブルを装着するスロットです。このセキュリティースロットは、ケンジントン社が提唱している規格に準拠しています。セキュリティケーブルの利用方法についてはセキュリティケーブル付属の説明書を参照してください。セキュリティケーブルを装着すると、beat-box4 の本体カバーを取り外すこともできなくなるため、内蔵ハードディスクの盗難も防止できます。

注記

セキュリティケーブルをご利用の際には、鍵を紛失しないよう十分に注意してください。

■ beat-box4 の電源オフの方法

beat-box4 は 365 日 24 時間動作させることを前提に設計されているので、次のような場合を除いて電源をオフにする必要はありません。

- (1) 移設などのために AC コンセントや本体から電源コードを抜く場合
- (2) 事前にわかっている停電などがある場合
- (3) トラブルの解消のために、beat コンタクトセンターから電源のオフ/オンをお願いした場合

※ beat-box4 には停電対応充電電池が内蔵されているので、停電時には正常に停止し、電源供給が回復すると自動的に起動します。しかし、毎日、毎週などの頻度で充電電池を使用すると劣化がすすみます。毎日、毎週のように頻繁にオフィスなどのブレーカー（電源）を落とす場合は、事前に beat-box4 の電源をオフにしてください。この場合は自動的に起動しないため、前面の電源スイッチを押して起動してください。

注記

ここに示す手順に従わずに電源をオフにすると、ハードディスクの故障やデータ消失が発生するおそれがあります。

電源オフの方法

電源オフの方法には、大きく分けて beat 設定ページから操作する方法（操作手順 A）と、電源スイッチで操作する方法（操作手順 B）の 2 種類があります。beat コンタクトセンターによるサポートを円滑にするため、なるべく前者の方法（操作手順 A）で電源をオフにしてください。

《操作手順 A》（beat 設定ページからの電源オフ）

この操作は beat-box 責任者だけが実行できます。

- ① Web ブラウザーの URL（アドレス）に「<http://beat-box:8080/>」を入力し、Enter キーを押します。beat 設定ページのホームページが表示されます。

補足

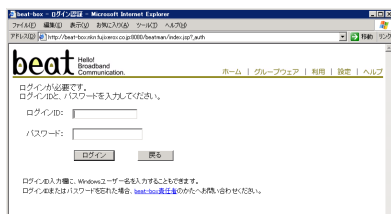
お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、“<http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/>”（例：<http://192.168.0.1:8080/>）を入力してください。

次の beat 設定ページが表示されます。

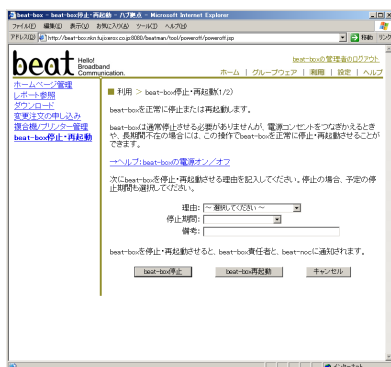


1. 各部の名称と働き

- ② ログインしていない場合は、[ログイン]をクリックし beat-box 責任者のログイン ID とパスワードを入力します。



- ③ beat 設定ページの[利用]をクリックします。
- ④ 左側のメニューの中の[beat-box の停止・再起動]をクリックします。
次の「beat-box 停止・再起動」画面が表示されます。



- ⑤ [理由]欄から beat-box4 を停止する理由を選択します(必須項目)。
- ⑥ [停止期間]欄から期間を選択します。
- ⑦ 必要であれば、[備考]欄に入力します。
[備考]の内容は通知メールには記載されますが、beat-noc には通知されません。
beat-box 責任者同士の情報共有などにご利用ください。
- ⑧ [beat-box 停止]ボタンをクリックします。
停止の操作者と理由が、すべての beat-box 責任者と beat-noc に通知されます。

[beat-box 停止]ボタンをクリックすると、約 10 秒後にシャットダウンが開始されます。シャットダウン中は、LED インジケータに“ooo”が表示されます。シャットダウンが完了すると、LED インジケータの表示は消えます。必ず表示が消えたことを確認してください。表示が消えれば電源オフは完了です。ただし、電源オフの状態でも電源コードが AC コンセントに接続されている場合は、電源ランプが5秒に1回点滅します。

注記

LEDインジケータの表示が“ooo”に変化しない場合や、“ooo”に変化後にLEDインジケータが消えない場合は、電源オフができていません。電源オフができない場合に限り、「強制停止による電源オフ」(P.7)に記載された手順で電源をオフにしてください。

《操作手順 B》（電源スイッチによる電源オフ）

- ① beat-box4 の電源スイッチを押します。
操作音のあと、LED インジケーターの表示が“OFF”に変わります。
- ② シャットダウンが開始されます。シャットダウン中は、LED インジケーターに“ooo”が表示されます。シャットダウンが完了すると、LED インジケーターの表示は消えます。必ず表示が消えることを確認してください。表示が消えれば電源オフは完了です。ただし、電源オフの状態でも電源コードが AC コンセントに接続されている場合は、電源ランプが5秒に1回点滅します。

注記

LEDインジケーターの表示が“ooo”に変化しない場合や、“ooo”に変化後にLEDインジケーターが消えない場合は、電源オフが完了していません。この場合に限り、「強制停止による電源オフ」(P.7)に記載された手順で電源をオフにしてください。

強制停止による電源オフ

「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5)で電源がオフにできなかった場合に限り、以下に示す手順を実行してください。強制停止によりbeat-box4 を停止すると、ハードディスクの故障やデータ消失が発生するおそれがあります。

《操作手順》

- ① beat-box4 前面の Force Power Off スwitchをボールペンなどの先の細いもので押し続けます（約 4 秒間）。

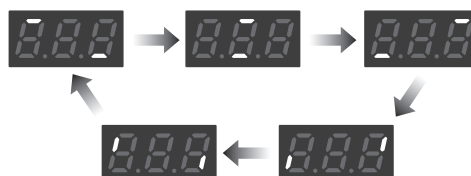
補足

強制停止により beat-box4 を停止させた場合、ファイルシステムのチェックのために次の起動時間が通常より長くなります。起動するまでしばらくお待ちください。

■ beat-box4 の電源オンの方法

《操作手順》

- ① beat-box4 に電源コードが差し込まれていることを確認します。
- ② beat-box4 の電源がオフになっていることを確認します。LED インジケーターの表示が消えて電源ランプが5秒に1回点滅しているときは、beat-box4 の電源がオフの状態です。電源がオンの場合は、以下の操作は必要ありません。
- ③ beat-box4 の電源スイッチを押します。
- ④ beat-box4 の電源がオンになり、起動を開始します。LED インジケーターには、まず“888”が、次に“P”と数字2桁が、さらに“A”と数字2桁が表示されます。システムが正常に起動すると、LED インジケーターが時計回りに回転するアニメーション表示になります。



補足

- beat-box4 が正しく起動できたことを確認するために、PC の Web ブラウザーから beat 設定ページを参照できることを確認してください。
- beat-box4 の電源をオフにし、直後にオンにする場合は、LED の表示が消えて 10 秒以上待ってからオンにしてください。

■ 動作温度について

beat-box4 の動作保証温度は、内蔵部品とデータ保護のため、5～40℃に制限しています。beat-box4 は、室温センサーや機器内部温度センサーを持っており、稼働中に周囲温度が動作保証範囲外へ変化した場合は、自動的に待機状態、または電源がオフになります。

LED ランプ(橙色)「Warning」が点滅している場合は、待機状態に入っているため、周囲温度が保証範囲内に戻ると自動的に再起動します。

電源ランプ(緑色)が5秒に1回の点滅をしている場合は、電源がオフの状態です。周囲温度が保証範囲内に戻ったら、電源スイッチを押して再起動してください。

■ 起動/シャットダウンの時間について

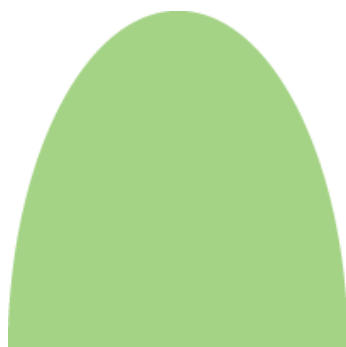
beat-box4 の電源をオンにすると、約3分でシステムが起動します。

また、シャットダウンは、約 1 分で完了します。

注記

ネットワークの通信状態や契約オプションなどによっては、これより長くなる場合があります。上記時間は目安とお考えください。

強制停止による電源オフ後の再起動時には、10 分以上かかる場合もあります。



スタートアップ編

2. beat サービスの紹介

■ 目的

多くのかたがインターネットを利用するようになりました。電話、ファクス、ダイレクトメール、看板、カタログに代わって、WWW ページ(ホームページ)や電子メールがより多く利用されています。現在では、ビジネスにおいても、インターネットは必須と言えるでしょう。たとえば、お客様向けには、WWW ページによる商品情報や、よくある質問に対する回答を公開することは、新たなお客様の獲得、コスト削減、顧客満足度向上のために重要です。商取引においても電子メールによる情報交換や、WWW ページによる商品情報の収集などが必要でしょう。

また、社内の業務でも見積書や提案資料などの文書作成、会計処理などの計算処理には PC を利用することが多くなりました。PC の価格も安くなってきたので、1人に1台 PC を配置することもできるようになりました。PC の台数が増えると、利用するデータの伝送や共有も必要になります。

そのためには、社内の PC をネットワークで結び、さらにそのネットワークをインターネットに接続しなければなりません。インターネットとの接続には ADSL や光回線を主流としたブロードバンドが登場して、低コストで行えるようになりました。企業における運用では、そのための機材調達、設定作業、社員教育、運用作業などのコストが無視できません。

beat サービスは、企業が社内外でネットワークを活用するための多彩なサービス(機能)と強固なセキュリティを、簡単な操作性とともに提供するサービスです。

ただし、beat サービスにはブロードバンドによるインターネットとの接続と、LAN と呼ばれる社内ネットワークによる PC 間の接続は含まれません。これは、次のような理由によります。

- ブロードバンドは地域に依存したいくつもの選択肢があり、価格や仕様にばらつきがある。
- LAN はお客様のオフィス環境に依存する。

■ 本章で用いられる用語について

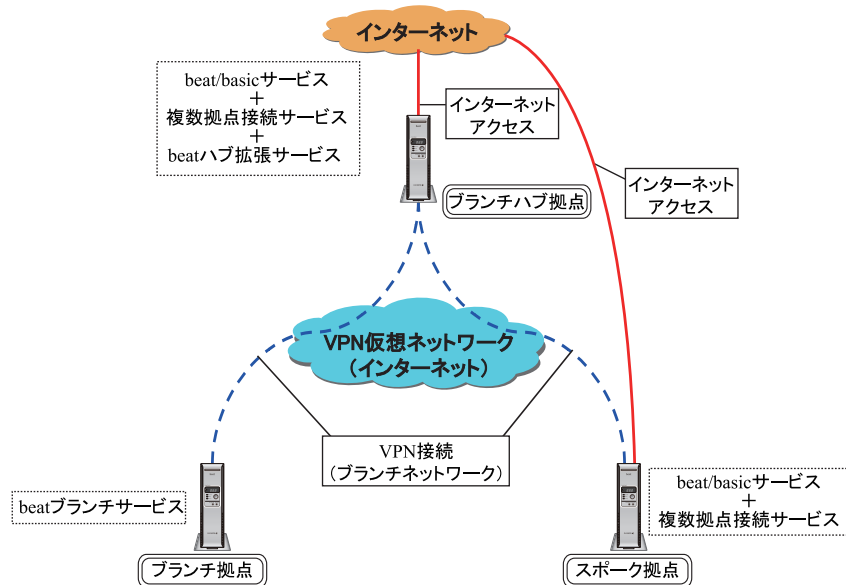
VPN

Virtual Private Network の略で、暗号化通信により既存のネットワーク網に形成された仮想的な LAN ネットワークを指します。beat サービスでは、大まかに次の 2 つの VPN 接続サービスがあります。なお、これらの VPN は混在することが可能です。

- 各拠点が beat/basic サービスと複数拠点接続サービスを契約することによって形成される VPN
- 1つの拠点が beat/basic サービス、複数拠点接続サービス、beat ハブ拡張サービスを契約し、他の拠点が beat ブランチサービスまたは「beat/basic サービスと複数拠点接続サービス」を契約することによって形成される VPN (ブランチネットワーク)

拠点

beat サービスで、beat-box が置かれている事業所などを表します。また、その拠点の beat-box そのものを指すこともあります。特に、beat 複数拠点接続サービスでハブとして機能している拠点を「ハブ拠点」、スポークとして機能している拠点を「スポーク拠点」と呼びます。そして、ブランチネットワークでハブとして機能している拠点を「ブランチハブ拠点」と呼びます。また、スポークとして機能している拠点のうちブランチサービスを契約している拠点を「ブランチ拠点」、beat/basic サービスと複数拠点接続サービスを契約している拠点を「スポーク拠点」と呼びます。



■ サービス概要

beat サービスには、主に次のような基本サービス、およびオプションサービスがあります。

beat/basic サービス

beat サービスの基本サービスの1つで、beat サービスの中核をなします。beat サービスの主要なものは、この beat/basic サービスによって提供されます。各拠点では、この beat/basic サービスか、beat ブランチサービスのいずれかを、基本サービスとして契約する必要があります。

beat 複数拠点接続サービス

beat/basic サービスのオプションサービスで、他の beat-box とVPN 接続することが可能になります。

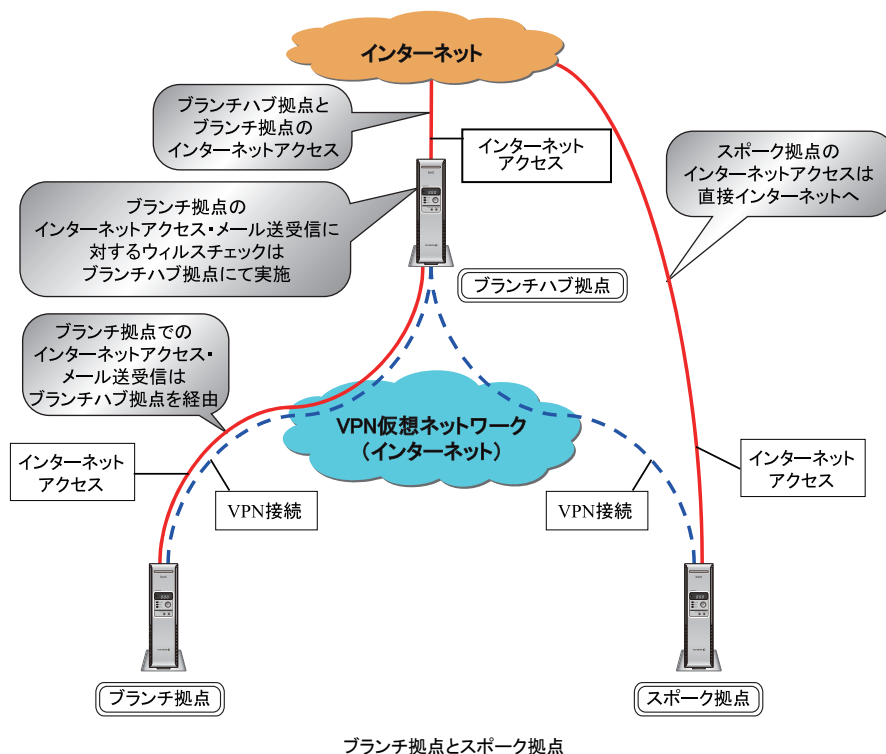
beat ハブ拡張サービス

beat/basic および複数拠点接続サービスに加えて、このサービスをオプション契約することにより、ブランチネットワークにおけるハブ拠点（ブランチハブ拠点）となり、beat ブランチサービスを基本契約とする beat-box とVPN 接続を形成することが可能になります。1つのコミュニティでこのサービスを契約できるのは、1拠点だけです。

beat ブランチサービス

ブランチ拠点をブランチハブ拠点に VPN 接続するサービスであり、ブランチ拠点で契約する基本サービスです。ブランチ拠点では、同時に beat/basic サービスを契約することはできません。

ブランチサービスにおけるブランチ拠点のインターネット通信は、原則としてすべてブランチハブ拠点を通じて行われます。また、利用者登録情報や外部メール関係におけるメールボックスは、ブランチハブ拠点の beat-box にあり、ブランチハブ拠点の beat/basic サービス契約に基づいてサービスが提供されます。つまり、ブランチ拠点では、beat-box は主に VPN ルーターとして機能することになります。



ブランチ拠点とスポーク拠点

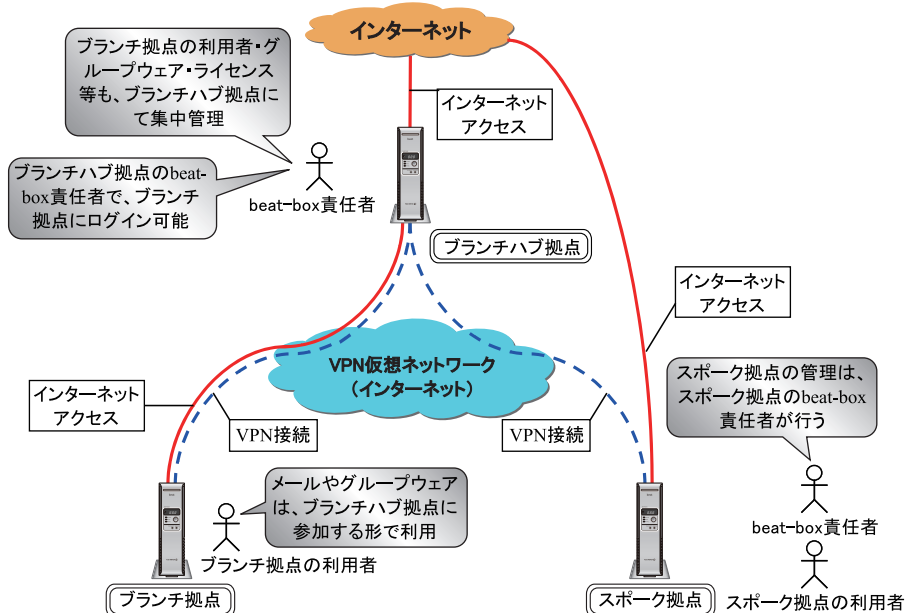
beat リモートアクセスサービス

beat/basic サービスのオプションサービスの1つで、外出先から beat-box や beat-box 配下の LAN への安全なアクセスが可能になります。通信は暗号化されているため、外部から傍受することはできません。また、独自の認証をすることにより、許可された PC 以外からアクセスすることはできません。

■ 複数拠点接続サービスとブランチサービスの比較

各拠点が複数拠点接続サービスを契約することによって形成され VPN 接続と、ブランチハブ拠点およびブランチ拠点から形成される VPN 接続(ブランチネットワーク)には、いくつかの相違点があります。それらを以下にまとめました。

VPN の種別	beat 複数拠点 接続サービス	ブランチネットワーク	
各種サービスを利用する拠点	ハブ拠点 ／スポーク拠点	ブランチハブ拠点 ／スポーク拠点	ブランチ拠点
WWW 閲覧	自拠点の beat-box 経由	自拠点の beat-box 経由	ブランチハブ拠点の beat-box 経由
メールの送受信	自拠点の beat-box 経由	自拠点の beat-box 経由	ブランチハブ拠点の beat-box 経由
ウイルスチェックの処理	自拠点の beat-box	自拠点の beat-box	ブランチハブ拠点の beat-box
利用者やグループウェアのデータベース	自拠点の beat-box	自拠点の beat-box	ブランチハブ拠点の beat-box
beat-box 責任者	各拠点に存在	各拠点に存在	存在しない



■ システム構成

beat サービスは、次の8つの大きな要素から構成されています。

(a) beat-box

お客様のオフィスに設置する beat サービスの専用サーバーです。所有権は富士ゼロックスにあり、故障時には無償で修理、交換いたします。インターネットと LAN の両方に接続し、不正アクセスなどの攻撃を防ぎつつインターネット上のサービスと通信し、LAN 向けに各種ネットサービスを提供します。

(b) beat-noc

beat サービス専用のネットワークオペレーションセンターで、インターネット上に存在します。これは、beat-box のソフトウェア、管理エージェント(自律的管理プログラム)、ウイルス定義ファイル、オンラインヘルプなどの更新を実施します。また、beat-box に対する不正アクセスや動作状況を監視し、異常時には beat コンタクトセンターなどと連係して対処します。

(c) beat/idc ホスティングサービス

オプションとしてご提供する、beat サービス専用のインターネットデータセンターです。インターネット上に位置し、お客様専用のメール受信サービスやホームページ公開サービスとして機能します。

(d) beat-client

Windows 専用のクライアントソフトウェアで、beat-box と連動してクライアント PC をサポートする機能を提供します。インストールは任意です。

(e) beat コンタクトセンター

beat サービスの不具合の報告や、使い方の問い合わせを電話等で受け付けます。

(f) クラウドマーク社判定サーバー

迷惑メール対策機能のために、米国クラウドマーク社が提供するサーバーです。迷惑メールかどうかの判定を行い、beat-box に判定結果を返します。

(g) beat/asp サービス for サイボウズ

オプションとしてご提供する、beat サービス専用のサイボウズサーバーです。インターネット上に位置しますが、サイボウズサーバーと beat-box 間は VPN 接続されるため、情報漏洩のリスクを低く抑えながら自社内にあるかのように利用できます。また、サイボウズサーバーは、高い耐震設計や無停電装置など安定性を備えた環境で稼動するので、安心して利用できます。サイボウズサーバーへは、beat-box 配下のネットワークからだけアクセスできます。

(h) 文書ストレージサービス

文書ストレージサービスのために、互いに 100km 以上離れた3か所のデータセンターで構成されます。文書を三重に保管することで、災害時の文書喪失リスクを分散します。

■ 機能と特長

(a) 基本ネットワークサービス

beat サービスの基本ネットワークサービスは、ネットワークを維持するための基本的なサービスです。

(a-1) IP アドレスの割当

IP アドレスとは、ネットワークに接続されている機器(PC など)の住所に相当するものです。ネットワークに接続する機器に正しい方法で IP アドレスを割り当てないと、その機器が通信できないだけでなく、他の機器の通信を妨げることもあります。

beat サービスでは、beat-box に個人用の PC に IP アドレスを割り当てる場合に便利な自動割当サービスと、プリンターなどの他の機器から利用される機器に IP アドレスを割り当てるための固定 IP アドレス割当機能を備えています。

(a-2) DNS(ドメインネームサービス)

DNS とは、"www.fujixerox.co.jp"といった文字列による名前から IP アドレスに変換するサービスです。たとえば、インターネット上のホームページを閲覧する場合は、文字列でホームページを指定するため、この変換が必要になります。

beat-box は DNS を提供します。そのため、ホームページの閲覧などの快適性が向上します。

(a-3) ネットワーク管理

ネットワークを使用するには、次のような設置、設定、管理が必要になります。

- ハードウェアやソフトウェアの調達
- 利用目的や利用状況に応じた設定
- ハードディスクやメモリーなどの容量の管理
- ソフトウェアのアップデート
- セキュリティ対策の実施
- 利用者に対する利用方法の説明
- トラブル発生時の対応
- 権利(ネットワーク権限)の管理

beat サービスでは、このうちお客様でなければ把握できない「権利の管理」と、お客様の具体的な業務や規模などに依存するネットワーク配線、PC、プリンター、クライアントソフトウェアといった「ハードウェアやソフトウェアの調達」を除いて代行します。

(b) 応用ネットワークサービス

beat サービスの応用ネットワークサービスは、基本ネットワークサービスを元に提供される応用サービスです。これらのサービスは、ブランチ拠点では、ブランチハブ拠点経由で提供されます。

(b-1) WWW アクセス

インターネット上にあるさまざまなホームページや映像を見たり、ソフトウェアをダウンロードしたり、さらには商品を注文するといったことが可能です。

(b-2) ホームページの作成

ホームページは商品広告、商品カタログ、商品サポート、求人広告などのさまざまな役割を果たします。beat サービスには、テンプレートに情報を記入、編集するだけで、ホームページを簡単に作成、公開、更新できる専用のホームページ作成ツール beat-hpmaker が搭載されています。

(b-3) メールの送受信

メールアドレスをお持ちのかたに、メッセージを送ることができます。電子データであれば、文書や画像などを同時に送ることもできます。一度に多くの人に同じものを送ることもできます。もちろん、受け取ることもできます。

beat/idc を使用すると、社外の人とのメールの交換もできます。また、beat/idc の使用にかかわらず、すでに使用している任意の IDC やホスティングサービスを介したメールの送受信ができます。

beat/idc を使用しない場合、IDC やホスティングサービスにメールボックスを持っていないと、メールを使用できません。

(b-4) メーリングリスト

メールは同時に複数のかたに送信できます。しかし、送信のたびに複数のかたを宛先に指定するのは面倒であり、漏れが発生することになります。

メーリングリストとは、メールアドレスをまとめたもので、メーリングリスト自身もメールアドレスを持ちます。メーリングリスト宛にメールを送信することにより、メーリングリストに含まれる各メールアドレスに対してメールが配信されます。

メーリングリストも、beat サービスで提供されるサービスの1つです。また、通常のメーリングリストに加えて、お客様のお客様に対して情報配信することに適したものも提供しています。

(b-5) グループ

beat サービスのグループとは、複数の利用者の集まりです。グループに含まれる利用者をメンバーと呼びます。

グループを作れば、グループと同じメンバーのメーリングリストを自動的に作成したり、共有フォルダーのアクセス権としてグループを指定したり、簡易グループウェアでメンバーのスケジュールを一覧したりすることが可能になります。メンバーを変更した場合、メーリングリストやアクセス権を変更する必要はありません。

(b-6) 共有フォルダー

共有フォルダーとは、beat-box の中にファイルを格納し、それを利用者が取り出せるようにするためのものです。Windows のデスクトップ上にある[ネットワーク コンピュータ]からアクセスできます。

(b-7) 簡易グループウェア

企業では、打ち合わせや同行といった協同作業が必要になります。その場合、各人のスケジュールを互いに確認する必要があります。

beat-box には、スケジュール管理機能、会議室やプロジェクターといった施設や設備の予約管理機能、掲示板の3つの機能を持った簡易グループウェアが搭載されています。この簡易グループウェアの利用者やグループは、beat-box の利用者やグループと連動しています。そのため、二重に管理する必要はありません。

(b-8) beat リモートアクセスサービス(オプション)

外出先や自宅の PC から、安全に beat-box にアクセスし、社内と同様に業務を遂行することを可能にします。通信路は暗号化し、盗聴を防止しています。許可された PC からだけアクセスできるので、接続用ソフトウェアなどを他の PC にコピーしてもアクセスできません。このサービスを使用するために、beat-box に固定 IP アドレスを取得する必要はありません。

(b-9) beat モバイルメールサービス(オプション)

リモートメール(株式会社 fonfun が提供するサービス)を利用して、時間や場所を選ばずに、オフィスに届くメールを携帯電話で閲覧、返信できます。メールの内容は携帯電話に残りません。また、beat サービス独自の強固なファイアウォール、ウイルス対策と連係しています。

(b-10) beat/asp サービス for サイボウズ(R) (オプション)

サイボウズ(R) Office 8 を ASP でご利用いただけるサービスです。基本サービスのスケジュール管理、掲示板、共通アドレス帳などの基本セットに加えて、ワークフロー、報告書、プロジェクトのマネジメントオプションもご利用いただけます。ASP なので、サーバーを準備する必要はありません。

(b-11) beat ケータイリモートサービス (オプション)

外出先から携帯電話でメールを閲覧、返信できます。また、beat-box の共有フォルダーに格納された電子文書や、オフィス内で利用する Web サーバー、オプションの「beat/asp サービス for サイボウズ」に携帯電話でアクセスし利用できます。

(b-12) 文書ストレージサービス

重要文書を3か所のデータセンターに暗号化して保管し、文書喪失リスクを軽減する文書ストレージ機能を、beat/basic サービスの標準機能(データセンター容量 1GB)として提供します。オプションでデータセンター容量を拡張することも可能です。

(c) セキュリティ対策

beat サービスのセキュリティ対策では、不正アクセス、ウイルス、盗聴といった外部からの脅威に対する安全対策を提供します。ランチ拠点のメールや WWW アクセスのウイルスチェックは、ランチハブ拠点経由で提供されます。

(c-1) ファイアウォール

ファイアウォールとは、「防火壁」という意味です。ネットワークではインターネットと LAN の間に位置し、インターネット側からの LAN に対する不正なアクセスを阻止するものです。

通常のファイアウォールは、アクセスは受け付けつつ、不正なアクセスを見分けて阻止します。この方法の場合は、新しい不正アクセスを不正アクセスと見分けることが難しいため、不正アクセスを完全に防ぐことはできません。

beat-box には、外からのアクセスを受け付けないタイプの、原理的に安全なファイアウォールを搭載しています。

(c-2) 未許可 PC の接続防止

beat-box の DHCP を用いて PC に IP アドレスを割り当てる場合、未許可の PC には IP アドレスを割り当てません。これにより、勤務者が自宅から持ち込んだ PC や、訪問者が持参した PC が LAN に接続されることを防止します。

(c-3) パスワードポリシー

パスワードに利用できる文字やパスワードの有効期限などを制限できます。これにより、パスワード漏洩による不正利用を防止できます。

(c-4) 社内メールの安全確保

beat-box 配下の LAN から送信された社内向けメールは、インターネットを経由することなく直接宛先に配信されます。そのため、機密情報や顧客情報などを社内メールで安全に送付できます。

補足

beat/idc 以外のメールサーバーを使用する場合、外部メール関係の設定によっては、社内向けメールがインターネットを経由します。

(c-5) メールウイルスチェック

ウイルスは、PC のソフトウェアやデータの破壊、データの盗聴といった不正処理を実行し、お客様の業務を停止させるおそれがあります。また、社外のユーザーにウイルスを配布し、業務上の信頼を損なうおそれもあります。

ウイルスの侵入経路になる可能性が最も高いのがメールです。beat-box では受信したメールはもちろんのこと、送信したメールに関してもウイルスチェックを実施し、ウイルスによる被害や加害者になることを防止します。ただし、チェックできないウイルスもあります。

(c-6) WWW アクセスなどのウイルスチェック

WWW アクセスや FTP によってアクセスした Web ページやダウンロードしたアプリケーションも、ウイルスの侵入経路となるおそれがあります。

beat-box は、beat-box 配下の LAN からの WWW アクセスやダウンロードしたファイルに対してもウイルスチェックを実行します。ただし、チェックできないファイルやウイルスもあります。

(c-7) スパイウェア防止

アンチウイルスエンジンは、ウイルスの検知と同様に、メールの送受信時や Web アクセス (HTTP、FTP ファイルのダウンロード) 時に悪意のあるスパイウェアを自動検出し、駆除します。悪意のあるスパイウェアとは、「キーロガー、ダイヤラー、バックドア、ハイジャッカー、DoS 攻撃ツール、ハッカーツールなどの利用者の意図に反してインストールされ、利用者の個人情報やアクセス履歴などの情報を収集するプログラムなど」です。ポップアップ広告を表示するアドウェアやクッキーは、ユーザーによっては必要と思われる場合があるため、beat-box のスパイウェア検出の対象外です。

(c-8) 迷惑メール対策

迷惑メールを自動判定し、迷惑メールの件名に "[spam]" などの文字列を追加します。メールクライアント (メール送受信ソフトウェア) で、迷惑メールを振り分けるなどの対応をすることで、迷惑メールによる業務の効率低下を防止できます。

(c-9) beat PC クライアントアンチウイルスサービス (オプション)

メール、WWW アクセスなどの経路でウイルスチェックを実施しても、社外のユーザーから送られてきたフロッピーや、CD-ROM を経由してウイルスが侵入することもあります。それを防ぐためには、PC のウイルスチェックを実施することが有効です。PC でウイルスチェックを実施するソフトウェアを、アンチウイルスソフトと呼びます。

お客様がお使いの PC の台数はさまざまであるため、beat サービスには PC のウイルスチェックソフトは含まれていません。オプションとして、月額固定料金制で Windows 用のアンチウイルスソフトを提供します。PC の台数分のライセンス契約をお勧めします。

(c-10) beat コンテンツフィルタサービス(オプション)

有害な WWW サイトや、業務上必要のない WWW サイトへのアクセスを制限することで、社員の生産性向上を支援するとともに、情報漏洩を防止する、WWW フィルタリング機能を提供します。セックス、ヌード、出会い、Web メールなどの計39カテゴリーから、閲覧させたくない WWW サイトのジャンルを選んで設定します。beat-box 配下のクライアントが、制限したカテゴリーの WWW サイトにアクセスするとブロック画面が表示され、閲覧できません。

(c-11) P2P ソフトなどによる通信の遮断

社内ネットワークにつながる PC で、Winny などの P2P ファイル共有ソフトや VPN ソフトを利用した場合、beat-box が対象となるソフトから発生するパケットを自動で検知し破棄することで、Winny などの通信を遮断します。社内ネットワークで Winny を利用しようとしても、Winny などによる P2P ファイル共有ネットワークを経由した社内ネットワークへのウイルス侵入や、社内ネットワークに存在する機密情報が流出する危険性を軽減することが可能になります。

(c-12) beat セキュリティーキーサービス(オプション)

PC のハードディスク内のファイルの暗号化と、PC のロック機能を提供します。専用のセキュリティキーを USB スロットに差し込むことで、PC のロックを解除し、暗号化されたファイルへアクセスすることができるようになります。また、設定によっては、beat-box の LAN 外での利用を禁止することもできます。ただし、Windows Vista 以降では、このサービスは利用できません。

(c-13) パケットフィルタリング

たとえば、特定の PC または特定のネットワークにある PC でメッセージャーを利用できなくする、といった詳細な通信の制御ができます。ただし、設定には専門的な知識が必要です。

(c-14) 不正な通信対策(IPS:侵入防止システム)

DoS 攻撃やボットなど従来のファイアウォールやアンチウイルスだけでは防止することが困難なセキュリティの脅威が増加しています。beat は不正な通信対策(IPS:侵入防止システム)によって、より巧妙で高度なセキュリティの脅威を防止し、より強固なセキュリティ環境を実現します。

(d) 安定化対策

beat サービスでは、サービスを安定して提供するために、数々の安定化対策を施しています。

(d-1) ソフトウェア自動アップデート

ソフトウェアの開発には最善を尽くしていますが、予期せぬ不具合やバグが発生する場合があります。それらを修正したり、機能改良をしたりするためにはソフトウェアをアップデートする必要があります。

beat-box 内のソフトウェアは、OS(基本ソフトウェア)も含めて、必要に応じて自動的にアップデートされます。お客様の操作は必要ありません。

beat サービスでは、エージェントと呼ばれる自律的なソフトウェアがネットワーク管理を実施しています。これも自動的にアップデートされます。

(d-2) 自動監視

beat-noc は常時 beat-box と通信し、その状態を監視しています。beat-box のソフトウェア、ウイルス定義ファイル、オンラインヘルプなどの更新も、自動的に実施されます。

(d-3) beat/idc によるホームページ公開(オプション)

お客様のホームページは、beat/idc またはお客様が直接契約されている IDC で公開されます。この方式によって、beat-box とインターネットを結ぶ回線が不通になっても、ホームページの公開は維持されます。

また、ホームページをお客様のオフィスにあるサーバーで公開した場合と異なり、お客様が利用している回線のより速度の影響を受けることなく、外部から快適にアクセスできます。

(d-4) beat/idc によるメール送受信(オプション)

お客様宛のメールは、beat/idc またはお客様が直接契約されている IDC で受信されます。この方式によって、beat-box とインターネットを結ぶ回線がダウンしても、お客様宛のメールは受信されます。もちろん、回線が復活するまでは、お客様がメールを読むことはできません。お客様のオフィスにあるサーバーで受信した場合と異なり、お客様が利用している回線がダウンしても、エラーメールが送信者に戻りません。

(d-5) NOC の多重化

beat サービスでは、ネットワーク管理センター (beat-noc: beat Network Operation Center) が beat-box のリモート管理、ソフトウェアアップデートなどを制御します。この beat-noc は多重化されており、故障やメンテナンスのために停止しても、制御は継続できます。

(d-6) RAID1 によるハードディスクの二重化

ハードディスクの信頼性は日々向上していますが、消耗部品でもあるため、ある確率で故障が発生することは免れません。

そこで beat-box では、お客様のデータ保護のため、ハードディスクを2台搭載し、ミラーリングを行っています。

ミラーリングとは、ハードウェアにより同時に2つのハードディスクに対してデータを書き込むことで、一方が故障してもデータは失われず、動作を継続可能とするものです。

いずれかのハードディスクのディスク不具合が発生すると、beat-noc 経由で富士ゼロックスに通知され、ハードディスク交換が自動的に手配されます。

(d-7) 停電対応充電池

停電が発生すると、一般のコンピューターは停止します。そのとき、ハードディスクに書き込み中の場合、故障の起こる可能性が極めて高くなります。

beat-box には、停電が発生しても、正常な停止処理を実行したあとに電源がオフになるように、充電池を搭載しています。

(d-8) PC 上のファイルの自動バックアップ

お客様の PC、特にハードディスクが故障すると、中に保存されているデータが失われることがあります。企業におけるデータ損失は、重大な損害につながります。それを防ぐには、PC 上で作成したデータを速やかにバックアップする必要があります。

beat サービスでは、PC サポートソフトウェア (beat-client) を用意し、その一部としてファイルの自動バックアップ機能を用意しています。これを利用すれば、beat-box の共有フォルダーや、同じマシンの異なるハードディスクへ、作成されたファイルをリアルタイムにバックアップできます。

beat-box などの共有フォルダーにファイルをバックアップすることにより、そのファイルを扱う担当者が出社できない場合でも、他のかたが業務を継続することができるという効果もあります。

(d-9) 時刻合わせ

PC の時刻が不正だと、異なる PC で更新されたファイルのどちらが最新であるかの判断に誤りが生じることがあります。

beat サービスの beat-client には、PC の時刻合わせ機能も装備されています。これにより、PC の時刻は、インターネット上の基準時刻 (ntp サービスの時刻) に基づいて同一に保たれます。ただし、Windows Vista および Windows 7 では、beat-client の時刻合わせ機能は利用できません。OS 標準の時刻合わせ機能をご利用ください。

(d-10) beat 回線二重化設定サービス(オプション)

インターネット接続回線を追加し、回線を二重化できます。主回線に障害が発生したときには、自動的に副回線に切り替わります。主回線が復旧した場合は、自動的に戻すことも、手動で戻すこともできます。

(d-11) 共有フォルダーバックアップ

beat-box の共有フォルダー内のファイルなどを NAS(ネットワーク接続型外付けハードディスク)などに定期的にバックアップする機能です。万一災害や盗難によって beat-box 自体が失われた場合でも、ファイルを復旧させることができます。NAS などはおお客様にご用意いただく必要があります。

(e) 簡単な運用と利用

beat サービスでは、簡単な運用と利用を可能とするために、次のサービスが標準で提供されます。

(e-1) beat-box 故障時の修理

お客様の正常な使用の範囲で beat-box が故障した場合は、富士ゼロックスが無償で修理または交換を実施します。

(e-2) beat コンタクトセンターによるサポート

サービスの不具合や、使用法の不明点についてのお問い合わせは、フリーダイヤルで受け付けています。beat コンタクトセンターの問い合わせ電話番号などは、この『ユーザーズガイド』の裏表紙に記載されています。

(e-3) 複雑な設定作業の自動化

ネットワークの各サービスを利用する場合、さまざまな設定が必要です。設定には、ネットワークの知識が要求されます。

beat サービスでは、ネットワークの知識が必要な設定作業のほとんどは自動化されています。また、手動の作業手順については、このガイドで詳しく説明します。

(e-4) WWW による簡単な設定

利用者やグループなどの登録や変更などの設定は、お客様独自のものです。そのため、お客様自身で操作していただきます。それらの設定は、すべて beat-box の beat 設定ページで簡単にできます。

(e-5) 各種履歴表示

メール送信、メール受信、DHCP による処理、WWW アクセス、共有フォルダーの利用、リモートアクセス(オプション)の利用などの履歴を記録し、また履歴を参照できます。

(e-6) 電子変更注文

オプションサービスの追加などを beat-box の beat 設定ページから注文できます。

(f) 複合機やプリンターとの連携機能

beat/basic サービスと複合機やプリンターが連携することで、より効率的で安全なドキュメントマネジメント環境をご提供します。

(f-1) ApeosPort 連携

ビジュアルで簡単な操作画面により、スキャンの操作性を向上する「らくらくスキャン」、用紙の節約に貢献し、環境への配慮に対する意識向上を促進する「ecoコピー」、頻繁に利用する設定だけを表示することで、シンプルで見やすい操作画面を実現する「らくらくコピー」を提供します。

(f-2) 安心ファクスサービス(オプション)

FAX 誤送信の抑止と、送信履歴および送信画像取得で情報漏洩対策を支援します。

(f-3) 文書ストレージ

BCP※の一環である、重要文書の保管、管理により、文書喪失のリスクを軽減し、事業活動の早期復旧を支援します。

※ BCP とは Business Continuity Plan の略で、企業が災害などの際に事業資産の損害を最小限にとどめ、事業継続の早期復旧を可能とするために行うべき活動、方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

(f-4) 複合機/プリンター管理・E-QIX 連携

複合機やプリンターの機器の配置や出力状況を最適化するために必要な、機器情報や出力情報、消耗品などの情報を取得し、レポートします。さらに E-QIX 連携で消耗品発注も簡単、便利になります。

(f-5) ケータイリモートサービス

携帯電話で外出先や出張先からオフィス内の情報を共有できるようにすることで、スピーディな業務遂行、業務の効率化を支援します。

(f-6) オンデマンドサービス for DocuWorks (オプション)

電子文書と紙文書を一元管理できる「DocuWorks」の最新バージョンを月単位の低コストで利用でき、業務フローの改善とドキュメントの有効活用を促進できます。

3. 利用ステップ

beat-box の設置後に、beat サービスを利用する手順は次のとおりです。ここでは、ブロードバンドが開通していることを前提としています。

(A)が終了したのちは、beat 設定ページが各種設定に必要になります。詳細については、beat 設定ページの「ヘルプ」の「利用ステップ」を参照してください。

以下に、利用ステップをご説明しますが、本書では(B)以降は概略だけを示しています。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。また、(C)以降については、必ずしも本書の順番に設定する必要はありません。必要に応じて、設定してください。

■ (A)PC の接続など

PC を beat-box4 に接続します。次の手順で実施します。プリンターなどの共有機器の接続は(C)を参照してください。

① beat-box 責任者のメールアドレスとパスワードの確認

beat-box 責任者のメールアドレスは、契約時にお客様から指定されたものです。お忘れの場合は、初期設置時に販売者の指定する技術者にお尋ねください。

② LAN 敷設

beat サービスには、LAN の敷設は含まれていません。必要に応じて LAN を敷設して、beat-box4 と各クライアント PC やプリンターなどを接続してください。できれば、beat-box4 設置以前に敷設を済ませることをお勧めします。

③ beat-box4 の初期設置

販売者の指定する技術者が初期設置にお伺いします。初期設置には、ブロードバンド回線の開通が必要です。また、beat/isp を使用しない場合は、ブロードバンド回線の種類に依存して、ISP 接続パスワード(認証パスワード、ネットワークパスワード、ログインパスワードなどとも呼ばれます)やアカウントが必要です。

④ PC の設定

beat サービスを使用するには、PC に簡単な設定が必要です。

参照

「4. PC初期設定の概要」(P. 34)

beat 設定ページへの接続法

これ以降のステップでは、beat 設定ページ接続が頻繁に必要になります。
beat 設定ページを使用するには、次の手順で操作してください。

- ① お使いの PC の Web ブラウザーを起動してください。
- ② Web ブラウザーの URL (アドレス) に“http://beat-box:8080/”を入力し、Enter キーを押してください。beat 設定ページのホームページが表示されます。

補足

お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、次のアドレスを入力してください。

http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/ (例: http://192.168.0.1:8080/)

- ③ beat設定ページのホームページが表示されない場合は、本書の「beat-boxと接続できない場合の対処」(P.83)を参照してください。
- ④ beat 設定ページで、右上のメニューのうち使用する項目をクリックしてください。
- ⑤ 左側のメニューから必要な項目をクリックしてください。
- ⑥ 利用者を確認しなければ利用できない機能を指定した場合は、ログインページが表示されるので、ログイン ID とパスワードを入力してください。

■ (B) 利用者や beat-box 責任者の登録など

利用者や beat-box 責任者の登録が必要です。このステップは必須です。

- ① beat-box 責任者のパスワード変更 (ブランチ拠点では不要)
beat-box 責任者の初期パスワードは「yKyAyfwK」です。このままでは、セキュリティ上の問題があります。パスワードは必ず変更してください。パスワードの変更は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]>[自身の設定]>[パスワード変更]で操作します。利用者の確認後、「パスワード変更」ページが表示されます。新しいパスワードを2か所に入力し、[変更]ボタンをクリックしてください。
- ② 利用者の登録
beat サービスを利用するユーザーを登録してください。設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]>[利用者管理]>[追加]で操作します。その後、そこで指定したメールアドレスと自動生成されたパスワードを利用者に伝えてください。そのとき、氏名とふりがなの入力は省略してもかまいません。

Excel シートを利用した利用者一括登録も可能です。詳細はオンラインヘルプを参照してください。

アカウント登録代行役務サービスを利用した場合は、利用者の登録は済んでいます。個々の利用者ごとに「利用者の登録」を実施する必要はありません。この場合の利用者のパスワードは固定で「741963」です。

③ 利用者のパスワードの変更

各利用者は、beat-box 責任者から伝えられたパスワードを変更してください。手順は①と同じです。

④ 利用者の氏名などの変更

各利用者は、ご自分の氏名とふりがなを入力してください。氏名は、beat サービスで各利用者を示すときに表示されます。ふりがなは、複数の利用者を一覧するときの順序を決めるために利用されます。また、Windows ユーザー名も入力してください。これは共有フォルダーにアクセスするときに利用されます。お使いの Windows における、ご自分のユーザー名にしてください。設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]>[自身の設定]>[利用者情報変更]で操作します。

⑤ beat-box 責任者の追加

beat-box 責任者を追加してください。beat-box 責任者が1人しかいないと、その人が出社できない場合やパスワードを忘れたときに、誰も beat サービスを運用できなくなります。設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]>[beat-box 責任者管理]>[変更]で操作します。

■ (C) 共有機器の接続

共有機器を利用する場合は、IP アドレスを固定割り当てにする必要があります。

設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]>[固定 IP アドレス確保]>[確保]で操作します。

■ (D) 電子メール

beat/idcを使用する場合は、メールクライアントの設定をする必要があります。beat/idc 以外のメールを使用する場合は、外部メール関係追加とメールクライアント設定が必要です。

外部メール関係追加

IDC(ホスティングサービス)に届くメールを beat-box に取り込むための設定です。

beat/idc に届くメールに関しては、外部メール関係は不要です。beat/idc 以外のメールを使用する場合は、メールアドレスごとに外部メール関係追加が必要です。

具体的には、(a)利用者自身が操作する方法と、(b)beat-box 責任者が利用者に代わって操作する方法があります。基本的な操作は同じです。

(a)の場合は、beat-box の beat 設定ページで、[設定]>[自身の設定]>[外部メール関係管理]で設定します。

(b)の場合は、beat-box の beat 設定ページで、[設定]>[利用者管理]>[外部メール関係管理]で設定します。

補足

- 外部メール連係とは、beat-box よりもインターネット側にあるメールサービスを利用して、beat-box 配下の LAN からメールを送受信する機能です。メールのウイルスは極めて危険であるために、beat サービスではメールの送受信時には必ずウイルスチェックを実施します。そのため、利用するメールサービスを beat-box に登録して、beat-box 経由でメールを送受信する設定が必要です。
- beat-box よりもインターネット側にあるメールサービスには、(a)お客様企業がご利用の法人向け IDC(ホスティングサービス)、(b)各利用者が個人的にご使用のメールサービスでオフィスからも利用したいもの、(c)お客様企業に設置してあるメールサーバー、などがあります。
- beat-box には、メールボックスと呼ばれる受信したメールを保存しておく入れ物があります。1つのメールアドレスに対して、1つのメールボックスを作成しなければなりません。そのため、beat-box 配下の LAN で利用したいメールアドレスごとに外部メール連係を追加する必要があります。1人の利用者が複数の外部メール連係をすることもできます。

外部メール連係を設定すると、beat-boxは指定されたIDCなどからメールを受信し、beat-boxのメールボックスに蓄えます。そして各PCユーザーは、メールクライアントを使用して、beat-boxのメールボックスからメールを受信することになります。メールクライアントの設定については、「メールクライアント設定」(P.28)を参照してください。

- beat/idcと外部メール連係は併用できます。beat/idcを使用している場合、他のIDCなどを経由したメールの送受信が必要な場合は、外部メール連係の登録をしてください。
- beat/idcを使用しない場合、IDCやホスティングサービスにメールボックスを持っていないと、メールを利用できません。

メールクライアント設定

メールクライアント(Outlook Express、などのメール送受信ソフトウェア)で beat-box を経由してメールを送受信するには、メールクライアントの設定を変更する必要があります。

beat/idcを使用する場合でも、メールクライアントの設定が必要です。

メールクライアントソフトウェアの設定方法については、beat 設定ページのオンラインヘルプや同梱の『設定手順書』を参考にしてください。

[メールクライアント設定]で一覧表示されるすべてのメールアドレスのそれぞれに対して、この設定を行い、メールクライアントからメールを受信してください。メールを受信しないと、beat-box のメール用の領域が一杯になってしまうことがあります。できれば1日に一度は受信してください。

■ (E) WWW アクセス

WWW アクセスをするには、Web ブラウザーにプロキシサーバーを設定しないでください。

Web ブラウザーに URL (アドレス) を指定するなどして、WWW ページを表示してください。

■ (F) 共有フォルダー

共有フォルダーは、beat-box 内のファイル保管場所です。複数の利用者間で共有したいファイルを格納できます。体系的に整理され、必要に応じて利用するマニュアルなどのファイルや、伝票などの大量で頻繁に追加されるファイルを共有フォルダーに格納すると便利です。また、サイズが 10Mbyte 以上で、メールに添付するには大きすぎるファイルをやり取りするために使用できます。

共有フォルダーは、複数作成できます。それぞれの共有フォルダーごとに、格納や削除が可能な利用者と、参照だけが可能な利用者を設定できます。格納や削除ができる権利を変更権、参照ができる権利を参照権と呼びます。変更権と参照権を合わせてアクセス権と呼ぶこともあります。アクセス権を「任意の人」に設定した場合は、すべての利用者が格納も参照もできます。

共有フォルダーを利用するには、Windows のデスクトップにあるネットワークコンピューターの [ネットワーク全体] > [Workgroup] > [beat-box] を開いてください。設定した共有フォルダーが一覧されます。

共有フォルダーの設定は、beat-box の beat 設定ページにアクセスし、[設定] > [共有フォルダー管理]で行ってください。

■ (G) メーリングリスト

メーリングリストとは、メールアドレスの集まりです。メーリングリスト自体もメールアドレスを持っており、メーリングリスト宛にメールを送ると、メーリングリストに含まれる個々のメールアドレスに送られます。

メーリングリストには、社外のユーザーのメールアドレスも含めることができます。たとえば、社外のかたも含めた特定のテーマについて情報交換する場合や、許可を得たお客様に対して情報提供する場合などに使用すると便利です。beat サービスの利用者だけをメンバーとする場合は、次に説明する「グループ」を利用することをお勧めします。

メーリングリストには、次の2種類があります。

- (a) 配信専用: お客様などの社外のかたへの情報配信を目的としています。
- (b) 送受信可能: 社外のかたを含んだ双方向の情報交換を目的としています。

(b)は beat/idc をご利用のお客様にだけ提供されます。

メーリングリストの作成は、beat-box の beat 設定ページの、[設定]>[メーリングリスト管理]>[作成]で操作します。

■ (H)グループ

グループとは、利用者の集まりです。課や係、または一時的なタスクフォース(ある特定の任務を遂行する実行チーム)などをグループにできます。

グループを用いると、共有フォルダーのアクセス権にグループを設定して、そのグループのメンバー全員に一度にアクセス権を与えることができます。また、グループのメンバーにメールを配信するメーリングリストを利用できるようになります。さらに、簡易グループウェアで、グループのメンバーのスケジュールを一覧表示できます。

グループに利用者を追加すれば、そのグループに与えられた共有フォルダーのアクセス権が自動的にその利用者に与えられたり、グループに対応したメーリングリスト宛のメールも配信されたりするなど、利用者の管理が簡単になります。グループの作成は、beat-box の beat 設定ページにアクセスし、[設定]>[グループ管理]>[作成]で操作します。

■ (I)ホームページ公開

ホームページを公開する場合は、ホームページを構成するファイル本体と、ホームページを公開する場所が必要になります。

beat サービスには Windows 用の法人向け簡易ホームページ作成ツール beat-hpmaker が同梱されています。beat-hpmaker を使用することにより、テンプレートに従って文章や画像を指定することで、簡単にホームページを作成し、修正できます。beat-hpmaker は、beat-box の beat 設定ページの[利用]>[ダウンロード]からダウンロードし、インストールしてください。マイクロソフト社の Internet Explorer 6.0 以降が必要です。

ホームページは beat-hpmaker 以外のツールを使用して作成することもできます。

beat/idc を使用する場合は、beat/idc でホームページを公開できます。beat-hpmaker でホームページを作成した場合は、beat-hpmaker における1回の操作でホームページを公開できます。

beat-hpmaker を利用しない場合は、共有フォルダー“homepage”にホームページを格納し、beat-box の beat 設定ページの[利用]>[ホームページアップロード]からアップロードできます。

beat/idc を使用しない場合は、ホームページの公開場所は提供されません。他の IDC(ホスティングサービス)などをご利用ください。

■ (J) 簡易グループウェア

beat サービスでは、スケジュール管理、施設予約、掲示板の機能を持った簡易グループウェアが提供されます。スケジュール管理では、複数人が参加するスケジュールや、定期的に実施されるスケジュールの一括登録などができます。

beat サービスの簡易グループウェアでは、利用者やグループは、beat サービスの通常の利用者やグループをそのまま使用できます。そのため、簡易グループウェア用に利用者やグループを再度登録する必要はありません。

たとえば、スケジュール管理は、beat-box の beat 設定ページの[グループウェア]>[スケジュール管理]で利用できます。

■ (K) PC サポートソフトウェア

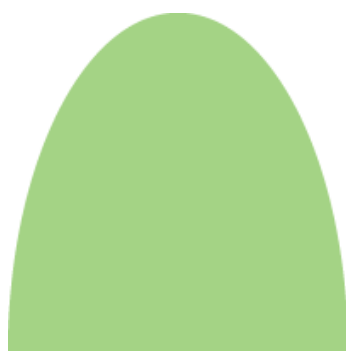
WindowsPC 用に、いくつかの便利な機能を提供するソフトウェア beat-client を用意しています。beat-client には、ファイルの自動バックアップ、時刻合わせ、beat サービスからのメッセージ受付などの機能があります。

beat-client は、beat-box の beat 設定ページの[利用]>[ダウンロード]でダウンロードできます。

■ (L) レポーティング

beat サービスの利用者や beat-box 責任者などが知るべき事項は、beat サービスからお知らせします。そのため、beat-box 責任者自らが利用状況などを把握する必要性はありません。しかし、beat-box 責任者が把握したいと考える目的やタイミングに対して、beat サービスからのお知らせだけでは十分でない場合もあります。そのため、beat-box 責任者は、beat サービスの利用状況レポートを随時参照することができるようになっています。

レポート参照は、beat-box の beat 設定ページで[利用]>[レポート参照]で操作します。



PC 初期設定編

4. PC 初期設定の概要

本編では、beat サービスを利用するための PC (Windows、Macintosh) の初期設定方法を説明します。

■ 対応 OS について

beat サービスは、下記の Windows、および Macintosh に対応しています。

Windows

- ◎ Windows XP
- ◎ Windows Vista
- ◎ Windows 7

および、上記以降に発売されたバージョンの Windows

Macintosh

- ◎ Mac OS X 10.5.x 以上

補足

Windows の対応 OS では、下記のエディションをサポートしています。

- Windows XP Professional 日本語版 (32bit) (Service Pack 2 以降)
- Windows XP Home 日本語版 (32bit) (Service Pack 2 以降)
- Windows Vista 日本語版 (32bit) (すべてのエディション)
- Windows 7 日本語版 (32bit) (すべてのエディション)
- Windows 7 日本語版 (64bit) (すべてのエディション)

■ 設定内容について

PC で必要とする設定は、「ネットワークの設定」と「Web ブラウザーの設定」です。ネットワークの設定は OS 別に、Web ブラウザーの設定は使用する Web ブラウザーのバージョン別に説明します。詳しくは各ページを参照してください。

◎ネットワークの設定

OS	ネットワークの設定
Windows	
Windows XP	36 ページ参照
Windows Vista	42 ページ参照
Windows 7	49 ページ参照
Macintosh	
Mac OS X	71 ページ参照

◎Web ブラウザーの設定

Web ブラウザーの種類	Web ブラウザーの設定
Windows	
Internet Explorer 6.x	57 ページ参照
Internet Explorer 7.x	61 ページ参照
Internet Explorer 8.x	65 ページ参照
Firefox 3.x	69 ページ参照
Macintosh	
Safari 3.2.x、4.0.x	75 ページ参照
Firefox 3.x	76 ページ参照

■ 設定の前に

各設定にあたっては、次のことを確認してください。

- ・ネットワーク環境が使えること(ネットワークアダプターやドライバのインストールなど)。
- ・Windows の場合、Windows インストール用のメディア(CD-ROM など)を用意しておく。
- ・作業中のアプリケーションを終了し、ウィンドウを閉じておく。

5. Windows のネットワークの設定

beat-boxに接続されたPCからインターネットにアクセスするには、PCでネットワークの設定をする必要があります。

必要な設定は次のとおりです。

- ◎「TCP/IP アドレスの設定」
- ◎「DNS の設定」
- ◎「ゲートウェイの設定」
- ◎「WINS の設定」
- ◎「ワークグループの設定」

設定内容は使用する OS やお客様の環境によって異なります。

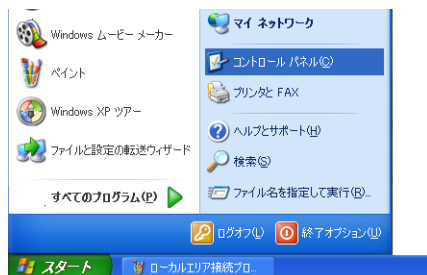
ここでは、beat-box の DHCP 機能が使用されている場合の設定方法を OS 別に説明します。

■ Windows XP

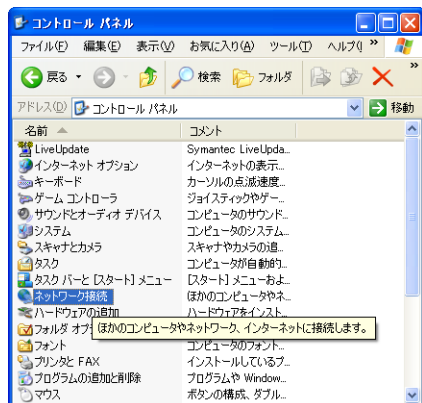
ネットワークの設定

《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。



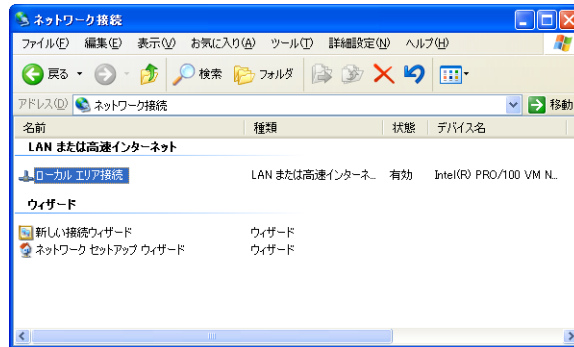
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。



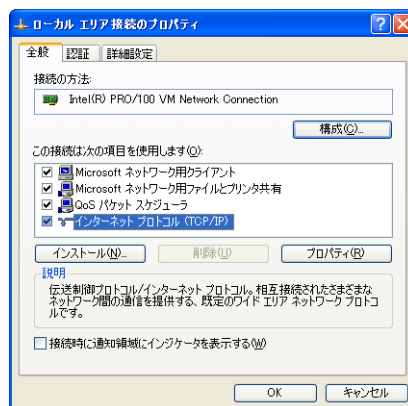
- ② [ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックします。
[ネットワーク接続]ウィンドウが表示されます。

補足

OS の設定によっては、ダブルクリックではなくシングルクリックで、[ネットワーク接続]ダイアログボックスが表示されます。



- ③ [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックして表示されたメニューから、[プロパティ]を選択します。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- ④ [この接続は次の項目を使用します]欄の[インターネット プロトコル (TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

補足

- 下記のような場合は、[この接続は次の項目を使用します]欄に[インターネット プロトコル(TCP/IP) -> ダイアルアップアダプタ]や[インターネット プロトコル(TCP/IP) -> (インストールされているネットワークアダプタ名)]など、複数の[インターネット プロトコル(TCP/IP)]が表示されます。

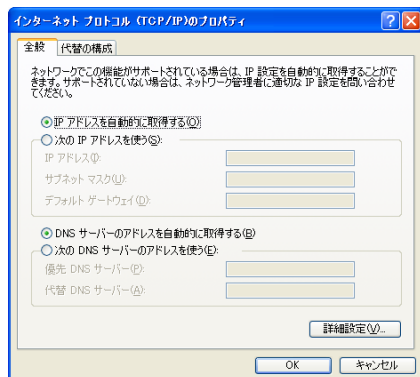
◎ダイアルアップアダプターがインストールされている

◎複数のネットワークアダプターがインストールされている

この場合は、対応するネットワークアダプターを選択してください。また、ダイアルアップアダプターは選択しないでください。

- [この接続は次の項目を使用します]欄の中に、TCP/IP やアダプターが表示されていない場合は、この操作の前に、ネットワークアダプターのインストールや TCP/IP プロトコルの追加を実施してください。

- ⑤ [インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]ダイアログボックスの[IP アドレスを自動的に取得する]と[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]をクリックして、選択します。

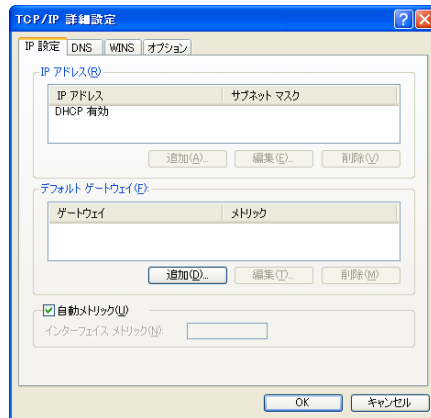


- ⑥ [詳細設定]ボタンをクリックします。

[TCP/IP 詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。各パネルを表示し、次のように設定します。

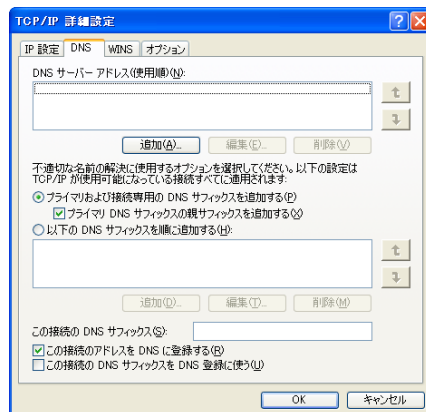
●[IP 設定]パネル(ゲートウェイ)

ここでは何も変更しません。[デフォルトゲートウェイ]欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



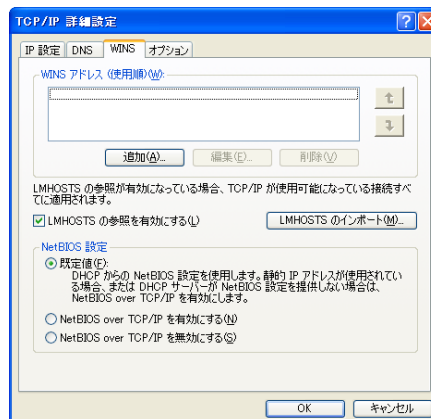
●「DNS」パネル

ここでは何も変更しません。[DNS サーバーアドレス(使用順)] 欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



●[WINS]パネル

ここでは何も変更しません。[WINS アドレス(使用順)] 欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



⑦ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

ワークグループの設定

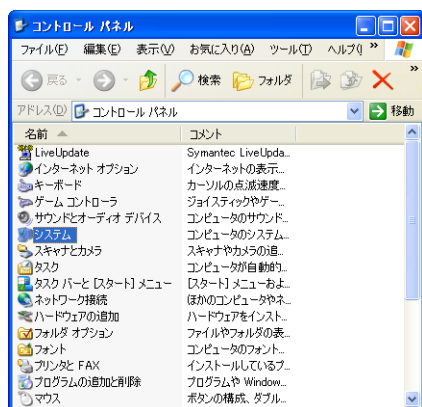
TCP/IP 関連の設定が終了したら、ワークグループを設定します。

《操作手順》

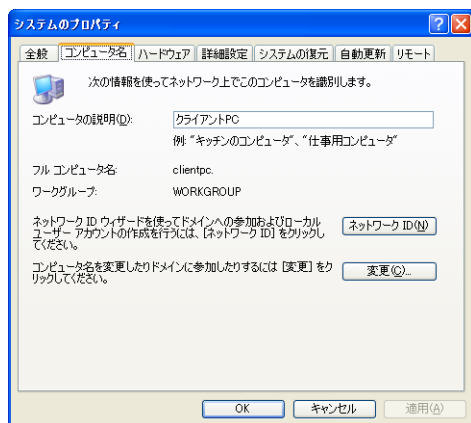
- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。
[コントロール パネル]ウィンドウが表示されます。
- ② [システム]アイコンをダブルクリックします。

補足

OS の設定によっては、ダブルクリックではなくシングルクリックになります。



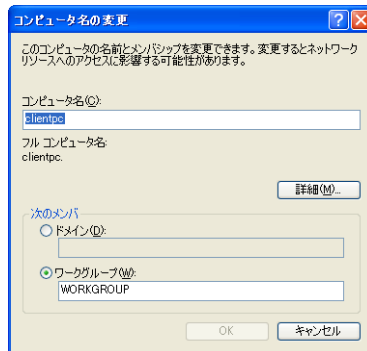
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- ③ すでにネットワークをお使いの場合は、そのままの設定でかまいません。
ただし、beat サービスが提供するファイル共有サービスを利用する場合は、[ワークグループ]を“WORKGROUP”にしておくと、より簡単にアクセスできます。

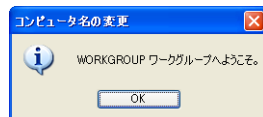
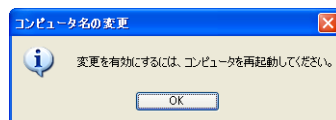
●ワークグループを変更する場合

ワークグループを変更する場合は、[変更]ボタンをクリックします。
[コンピュータ名の変更]ダイアログボックスが表示されます。



必要に応じて[コンピュータ名]欄と[ワークグループ]欄の内容を変更し、[OK]ボタンをクリックします。

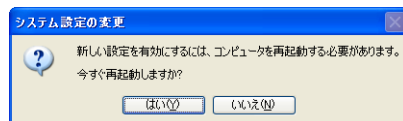
下記のようなダイアログボックスが表示されたら、それぞれ[OK]ボタンをクリックします。



[システムのプロパティ]ダイアログボックスに設定した内容が表示されるので、[コンピュータ名]と[ワークグループ]を確認します。

- ④ 以上の設定が完了したら、[システムのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックします。

ネットワークの修正があった場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。



[はい]ボタンをクリックすると、ただちに PC が再起動されます。

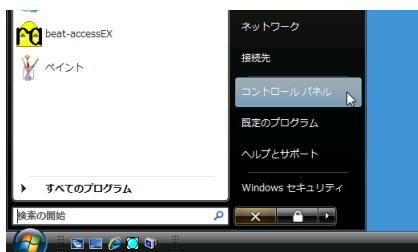
ここで再起動したくない場合は、[いいえ]ボタンをクリックし、他の作業を終了してから再起動してください。

■ Windows Vista

ネットワークの設定

《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。

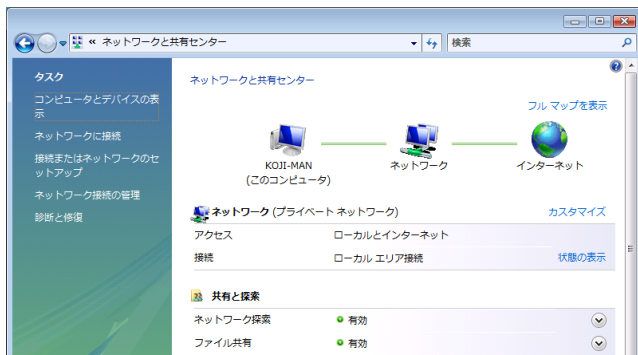


[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- ② [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



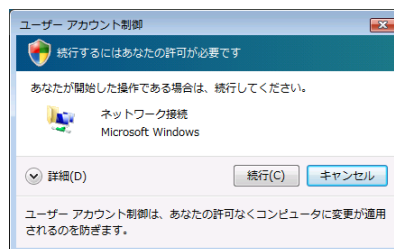
- ③ [ネットワーク(プライベート ネットワーク)]の[ローカル エリア接続]の右にある[状態の表示]をクリックします。



- ④ [プロパティ]ボタンをクリックします。

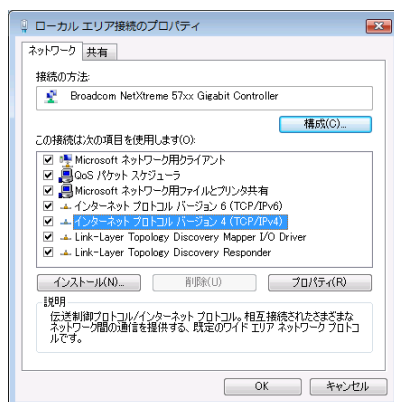


[ユーザー アカウント制御]ダイアログボックスが表示されたら、[続行]ボタンをクリックします。管理者権限以外のアカウントでログインしている場合は、管理者アカウントとパスワードを入力します。



[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

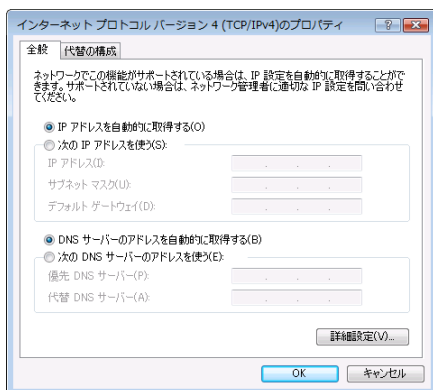
- ⑤ [この接続は次の項目を使用します]欄の[インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



補足

[この接続は次の項目を使用します]欄の中に、TCP/IP やアダプターが表示されていない場合は、この操作の前に、ネットワークアダプターのインストールや TCP/IP プロトコルの追加を実施してください。

- ⑥ [インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ]ダイアログボックスの[IP アドレスを自動的に取得する]と[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]をクリックして、選択します。

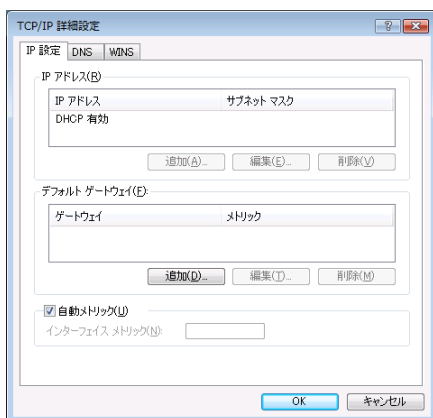


- ⑦ [詳細設定]ボタンをクリックします。

[TCP/IP 詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。各パネルを表示し、次のように設定します。

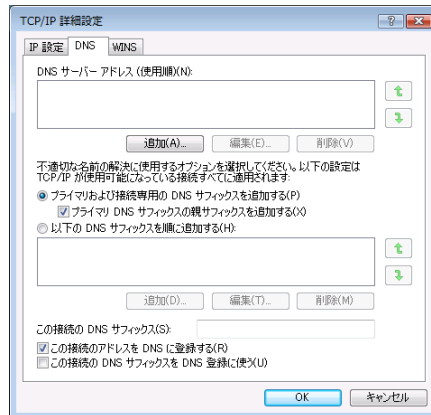
●[IP 設定]パネル(ゲートウェイ)

ここでは何も変更しません。[デフォルトゲートウェイ]欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



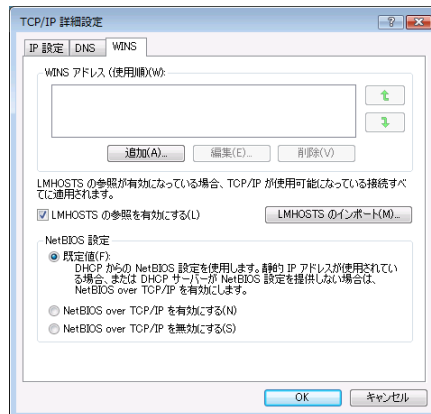
●「DNS」パネル

ここでは何も変更しません。[DNS サーバーアドレス(使用順)] 欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



●[WINS]パネル

ここでは何も変更しません。[WINS アドレス(使用順)] 欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



⑧ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

ワークグループの設定

TCP/IP 関連の設定が終了したら、ワークグループを設定します。

《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。

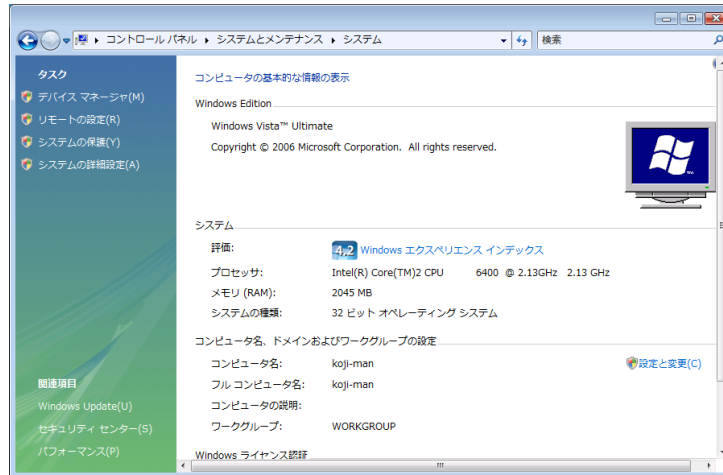
[コントロール パネル]ウィンドウで、[システムとメンテナンス]をクリックします。



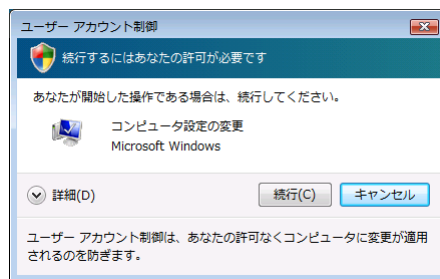
- ② [コンピュータの名前の参照]をクリックします。



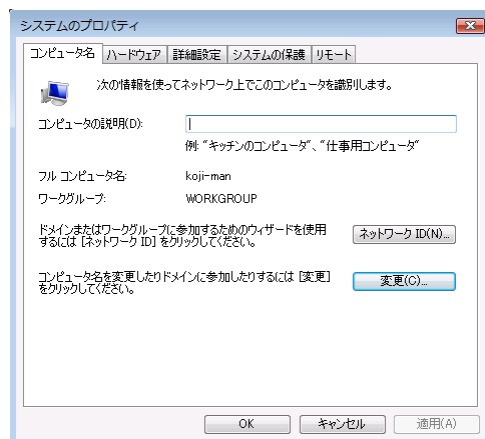
③ [設定と変更]をクリックします。



[ユーザー アカウント制御]ダイアログボックスが表示されたら、[続行]ボタンをクリックします。管理者権限以外のアカウントでログインしている場合は、管理者アカウントとパスワードを入力します。



④ [変更]ボタンをクリックします。

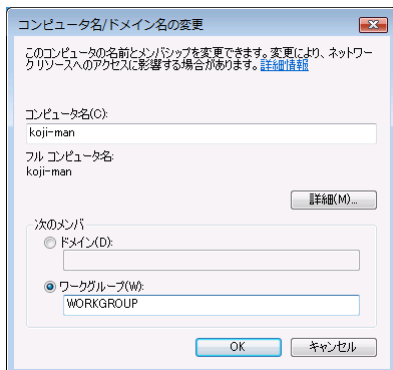


- ⑤ すでにネットワークをお使いの場合は、そのままの設定でかまいません。ただし、beat サービスが提供するファイル共有サービスを利用する場合は、[ワークグループ]を“WORKGROUP”にしておくと、より簡単にアクセスできます。

●ワークグループを変更する場合

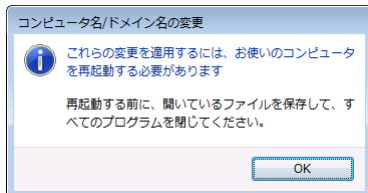
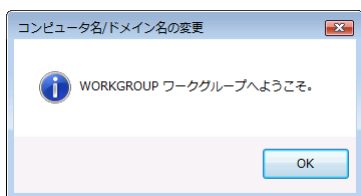
ワークグループを変更する場合は、[変更]ボタンをクリックします。

[コンピュータ名/ドメイン名の変更]ダイアログボックスが表示されます。



必要に応じて[コンピュータ名]欄と[ワークグループ]欄の内容を変更し、[OK]ボタンをクリックします。

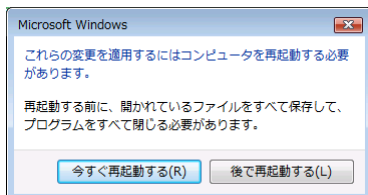
下記のようなダイアログボックスが表示されたら、それぞれ[OK]ボタンをクリックします。



[システムのプロパティ]ダイアログボックスに設定した内容が表示されるので、[コンピュータ名]と[ワークグループ]を確認します。

- ⑥ 以上の設定が完了したら、[システムのプロパティ]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックします。

ネットワークの修正があった場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。



[今すぐ再起動する]ボタンをクリックすると、ただちに PC が再起動されます。

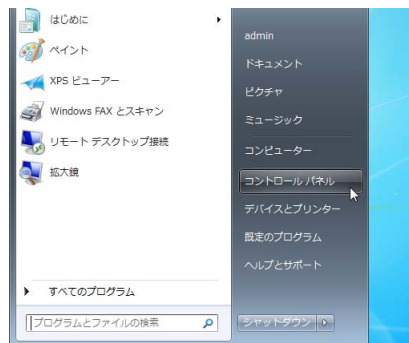
ここで再起動したくない場合は、[後で再起動する]ボタンをクリックし、他の作業を終了してから再起動してください。

■ Windows 7

ネットワークの設定

《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。

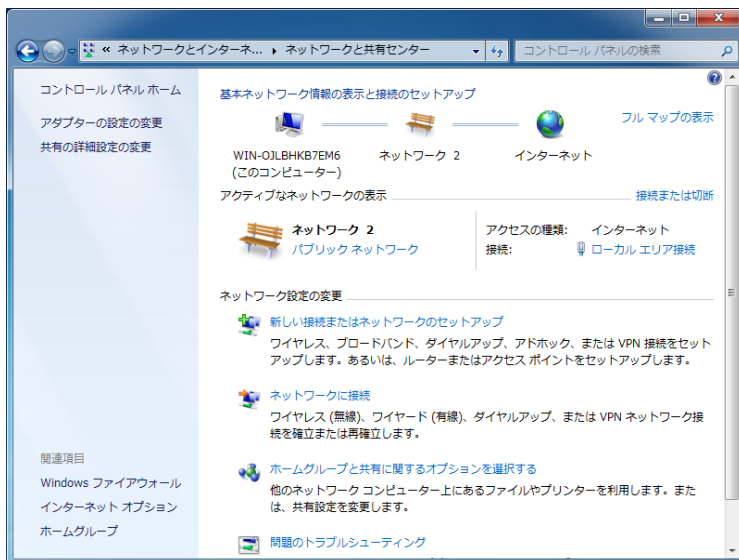


[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

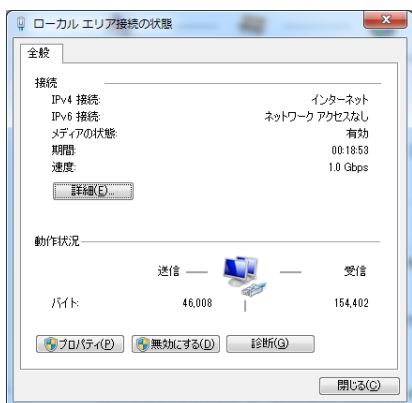
- ② [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。



- ③ [アクティブなネットワークの表示]の[ローカル エリア接続]をクリックします。



- ④ [プロパティ]ボタンをクリックします。

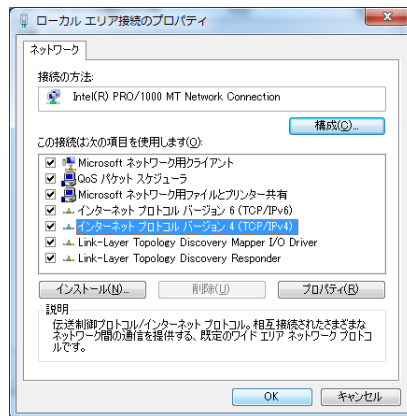


[ユーザー アカウント制御]ダイアログボックスが表示されたら、[続行]ボタンをクリックします。管理者権限以外のアカウントでログインしている場合は、管理者アカウントとパスワードを入力します。



[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

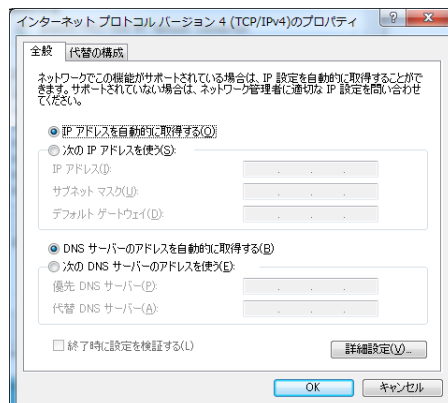
- ⑤ [この接続は次の項目を使用します] 欄の[インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



補足

[この接続は次の項目を使用します] 欄の中に、TCP/IP やアダプターが表示されていない場合は、この操作の前に、ネットワークアダプターのインストールや TCP/IP プロトコルの追加を実施してください。

- ⑥ [インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ] ダイアログボックスの [IP アドレスを自動的に取得する] と [DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] をクリックして、選択します。

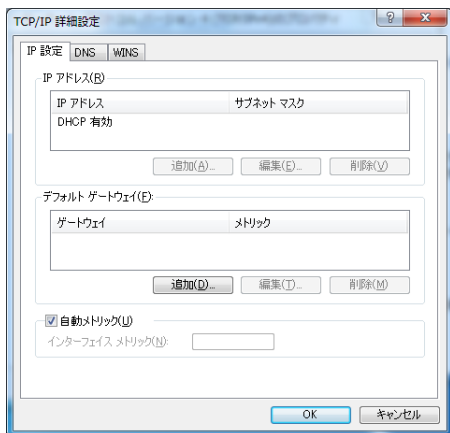


- ⑦ [詳細設定] ボタンをクリックします。

[TCP/IP 詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。各パネルを表示し、次のように設定します。

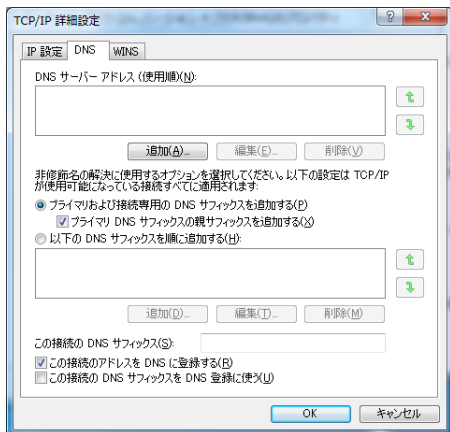
● [IP 設定] パネル(ゲートウェイ)

ここでは何も変更しません。[デフォルトゲートウェイ] 欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除] ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



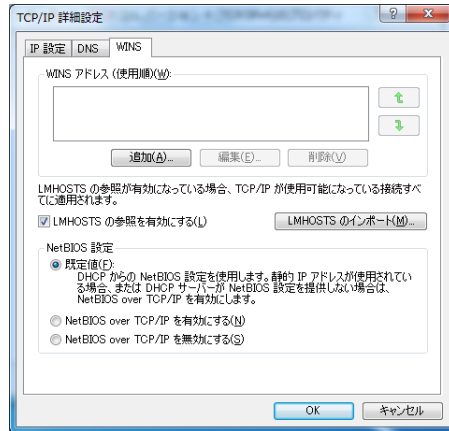
● 「DNS」パネル

ここでは何も変更しません。[DNS サーバーアドレス(使用順)] 欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除] ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



●[WINS]パネル

ここでは何も変更しません。[WINS アドレス(使用順)]欄に何か表示されている場合は、項目を選択して[削除]ボタンをクリックし、すべての項目を削除してください。



⑧ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

ワークグループの設定

TCP/IP 関連の設定が終了したら、ワークグループを設定します。

《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロール パネル]ウィンドウで、[システムとセキュリティ]をクリックします。



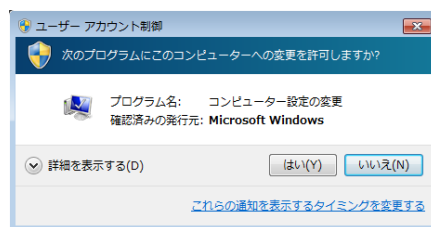
- ② [コンピューターの名前の参照]をクリックします。



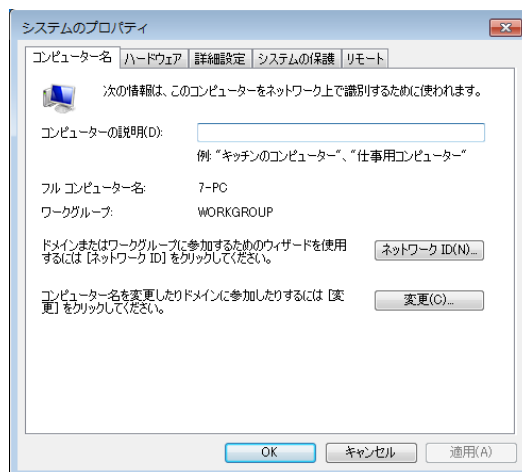
③ [設定の変更]をクリックします。



[ユーザー アカウント制御]ダイアログボックスが表示されたら、[続行]ボタンをクリックします。管理者権限以外のアカウントでログインしている場合は、管理者アカウントとパスワードを入力します。



④ [変更]ボタンをクリックします。



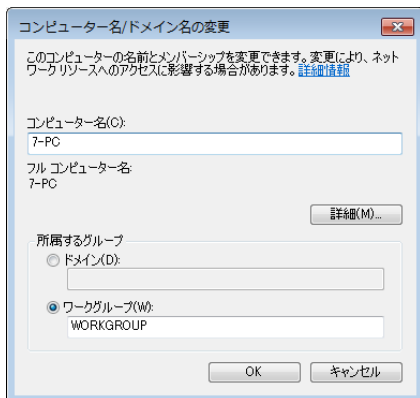
⑤ すでにネットワークをお使いの場合は、そのままの設定でかまいません。

ただし、beat サービスが提供するファイル共有サービスを利用する場合は、[ワークグループ]を“WORKGROUP”にしておくと、より簡単にアクセスできます。

●ワークグループを変更する場合

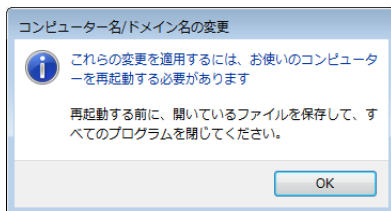
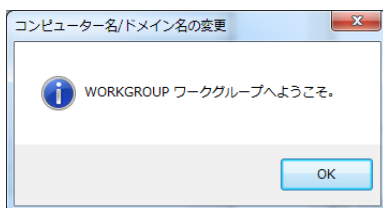
ワークグループを変更する場合は、[変更]ボタンをクリックします。

[コンピューター名/ドメイン名の変更]ダイアログボックスが表示されます。



必要に応じて[コンピューター名]欄と[ワークグループ]欄の内容を変更し、[OK]ボタンをクリックします。

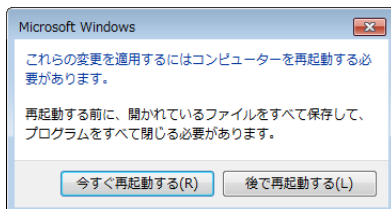
下記のようなダイアログボックスが表示されたら、それぞれ[OK]ボタンをクリックします。



[システムのプロパティ]ダイアログボックスに設定した内容が表示されるので、[コンピューター名]と[ワークグループ]を確認します。

- ⑥ 以上の設定が完了したら、[システムのプロパティ]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックします。

ネットワークの修正があった場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。



[今すぐ再起動する]ボタンをクリックすると、ただちに PC が再起動されます。

ここで再起動したくない場合は、[後で再起動する]ボタンをクリックし、他の作業を終了してから再起動してください。

6. Windows の Web ブラウザーの設定

beat-box に接続された PC で、ホームページを閲覧するには、Web ブラウザーの設定をする必要があります。

ネットワークの設定には、「プロキシサーバー設定」、「キャッシュ設定」、「JavaScript 設定」がありますが、設定方法は使用する Web ブラウザーやバージョンにより多少異なります。

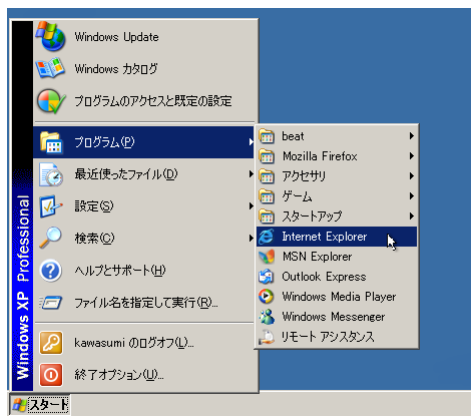
ここでは、各 Web ブラウザー別に設定方法を説明します。

また、Web ブラウザーの設定作業はネットワークの設定を完了してから実施してください。

■ Internet Explorer 6.x

《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[プログラム]をポイントし、[Internet Explorer]をクリックします。

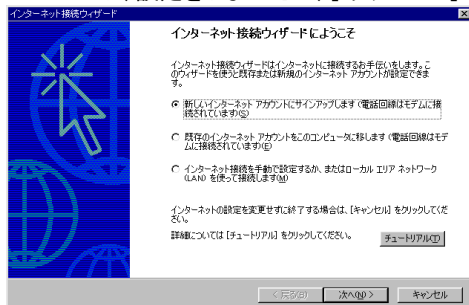


Internet Explorer が起動します。

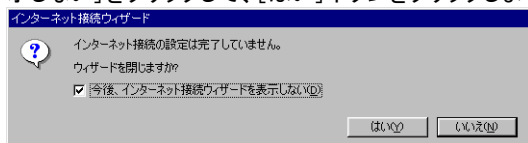
補足

Internet Explorer をインストール後、はじめて起動する場合は、[インターネット接続ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

1. ここでは、設定をしないため、[キャンセル]ボタンをクリックします。



2. 確認のダイアログボックスが表示されるので、[今後、インターネット接続ウィザードを表示しない]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。



②の手順に進んでください。

② Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。



[インターネット オプション]ダイアログボックスが表示されます。

③ [インターネット オプション]ダイアログボックスの各タブをクリックして、各パネルを表示し、次のように設定します。

●[接続]パネル(プロキシサーバー設定)



[LAN の設定] ボタンをクリックすると、[ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[プロキシサーバーを使用する] がチェックされている場合は、クリックしてチェックマークを外し、[OK] ボタンをクリックします。



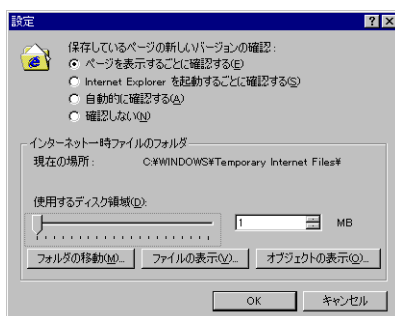
●[全般]パネル(キャッシュ設定)

[インターネット一時ファイル] 欄の[設定] ボタンをクリックします。



[設定]ダイアログボックスが表示されます。

[ページを表示することに確認する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。



●[セキュリティ]パネル (JavaScript 設定)

[Web コンテンツのゾーンを選択してセキュリティのレベルを設定する]欄で[インターネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。

同じく[Web コンテンツのゾーンを選択してセキュリティのレベルを設定する]欄で[イントラネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。

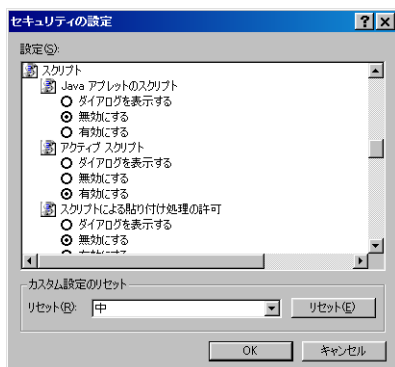
設定するには、つまみをドラッグします。



補足

すでに Web ブラウザーを使用していると、[このゾーンのセキュリティレベル]欄がカスタマイズレベルになっている場合があります。このときは、下記の手順に従ってください。

[このゾーンのセキュリティレベル]欄で[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。[セキュリティの設定]ダイアログボックスが表示されるので、[アクティブスクリプト]の[有効にする]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

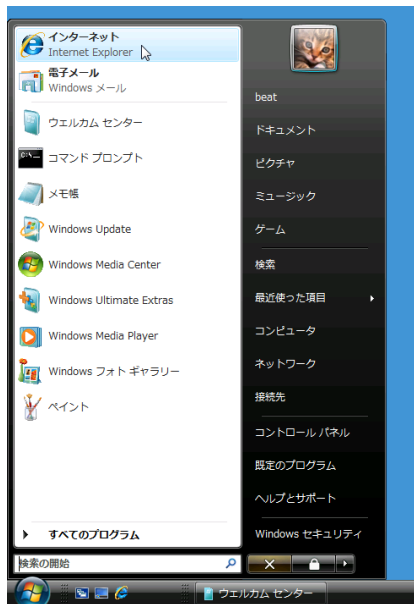


- ④ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

■ Internet Explorer 7.x

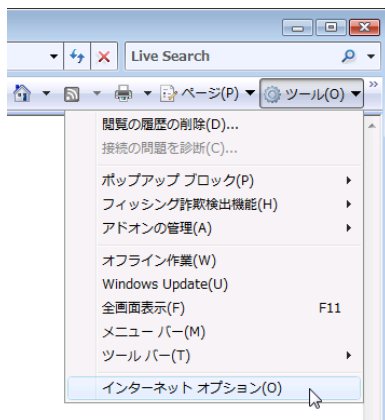
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[Internet Explorer]をクリックします。



Internet Explorer が起動します。

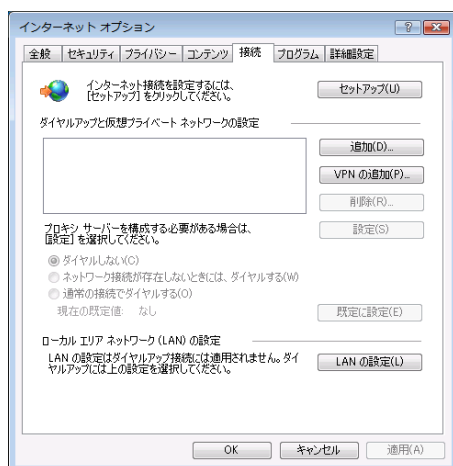
- ② Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。



[インターネット オプション]ダイアログボックスが表示されます。

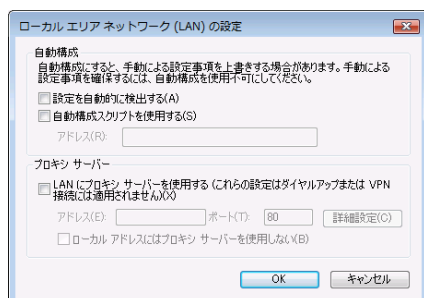
- ③ [インターネット オプション]ダイアログボックスの各タブをクリックして、各パネルを表示し、次のように設定します。

●[接続]パネル(プロキシサーバー設定)



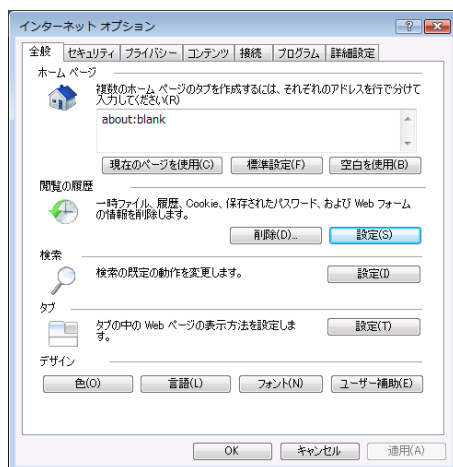
[LAN の設定]ボタンをクリックすると、[ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]ダイアログボックスが表示されます。

[LAN にプロキシサーバーを使用する]がチェックされている場合は、クリックしてチェックマークを外し、[OK]ボタンをクリックします。

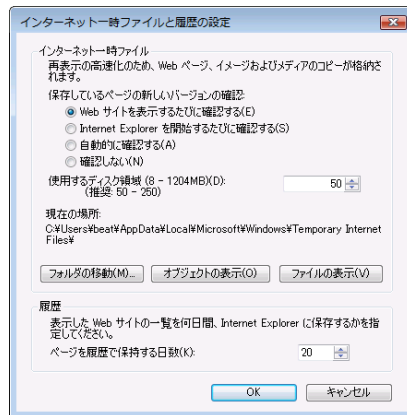


●[全般]パネル(キャッシュ設定)

[閲覧履歴]欄の[設定]ボタンをクリックします。

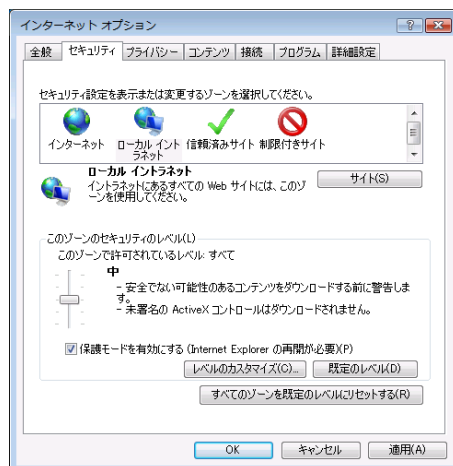


[インターネット一時ファイルと履歴の設定]ダイアログボックスが表示されます。
[Web サイトを表示するたびに確認する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。



●[セキュリティ]パネル (JavaScript 設定)

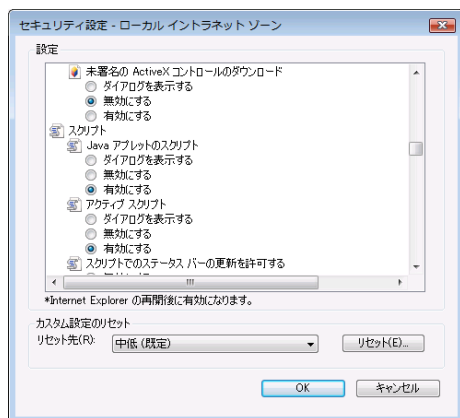
[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください]欄で[インターネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中高」に設定します。
同じく[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください]欄で[ローカル イントラネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。
設定するには、つまみをドラッグします。



補足

すでに Web ブラウザーを使用していると、[このゾーンのセキュリティレベル]欄がカスタマイズレベルになっている場合があります。このときは、下記の手順に従ってください。

[このゾーンのセキュリティレベル]欄で[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。[セキュリティ設定]ダイアログボックスが表示されるので、[アクティブ スクリプト]の[有効にする]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

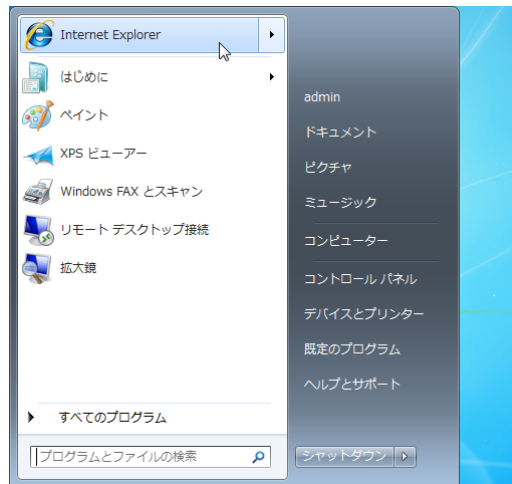


- ④ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

■ Internet Explorer 8.x

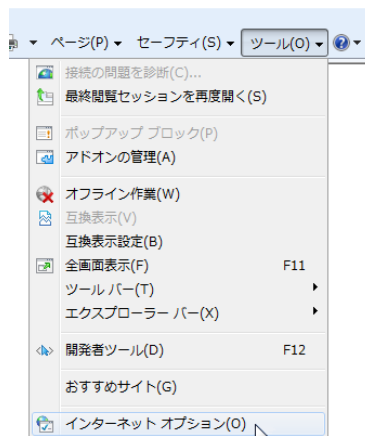
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[Internet Explorer]をクリックします。



Internet Explorer が起動します。

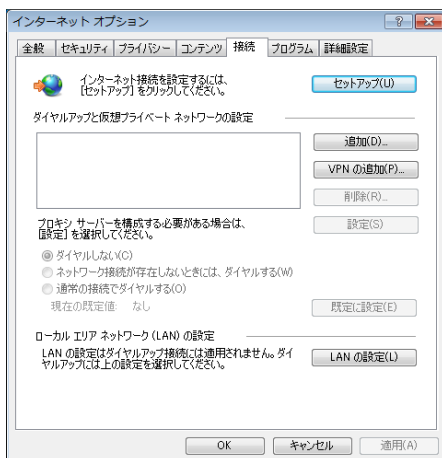
- ② Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。



[インターネット オプション]ダイアログボックスが表示されます。

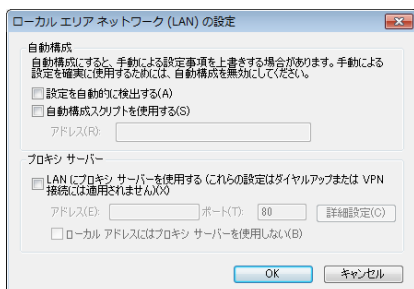
- ③ [インターネット オプション]ダイアログボックスの各タブをクリックして、各パネルを表示し、次のように設定します。

●[接続]パネル(プロキシサーバー設定)



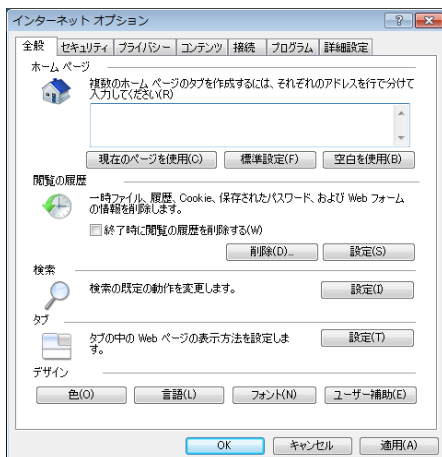
[LAN の設定]ボタンをクリックすると、[ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]ダイアログボックスが表示されます。

[LAN にプロキシサーバーを使用する]がチェックされている場合は、クリックしてチェックマークを外し、[OK]ボタンをクリックします。

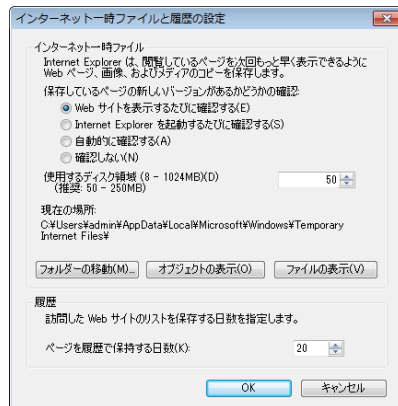


●[全般]パネル(キャッシュ設定)

[閲覧の履歴]欄の[設定]ボタンをクリックします。



[インターネット一時ファイルと履歴の設定]ダイアログボックスが表示されます。
[Web サイトを表示するたびに確認する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

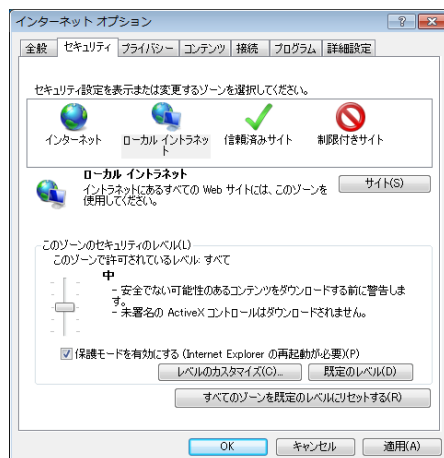


●[セキュリティ]パネル (JavaScript 設定)

[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください]欄で[インターネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中高」に設定します。

同じく[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください]欄で[ローカル イン트라ネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。

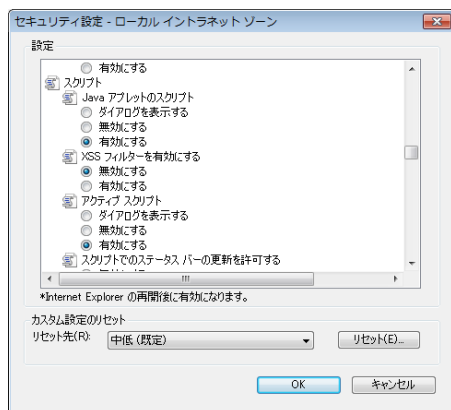
設定するには、つまみをドラッグします。



補足

すでに Web ブラウザーを使用していると、[このゾーンのセキュリティレベル]欄がカスタマイズレベルになっている場合があります。このときは、下記の手順に従ってください。

[このゾーンのセキュリティレベル]欄で[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。[セキュリティ設定]ダイアログボックスが表示されるので、[アクティブ スクリプト]の[有効にする]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

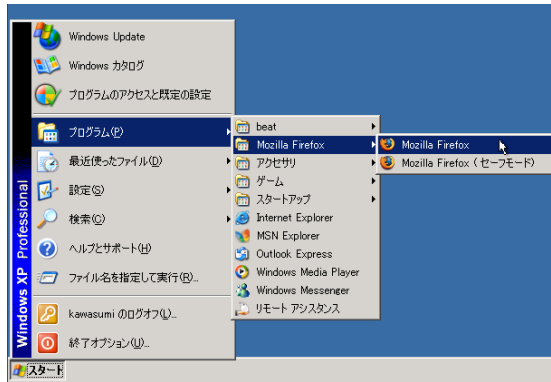


- ④ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

■ Firefox 3.x

《操作手順》

- ① Windows の [スタート] ボタンをクリックして表示されたメニューから、[プログラム]、[Mozilla Firefox]を順にポイントし、[Mozilla Firefox]をクリックします。



Firefox が起動します。

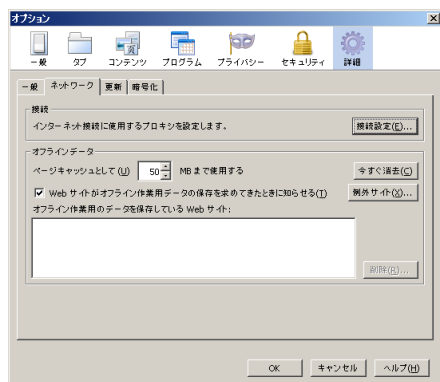
- ② Firefox の [ツール]メニューから[オプション]を選択します。



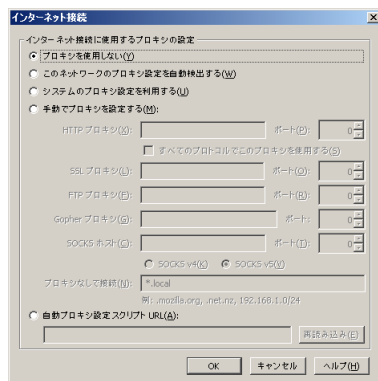
[オプション]ダイアログボックスが表示されます。

- ③ [オプション]ダイアログボックスの各アイコンをクリックして、それぞれ次のように設定します。

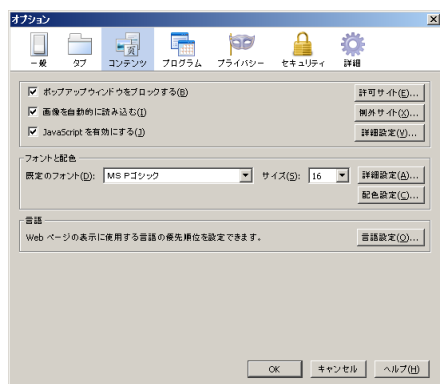
- [詳細]の[ネットワーク]パネル
[接続設定]ボタンをクリックします。



- [プロキシを使用しない]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。



- [コンテンツ] (JavaScript 設定)
[JavaScript を有効にする]にチェックマークを付けます。



- ④ [オプション]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックします。

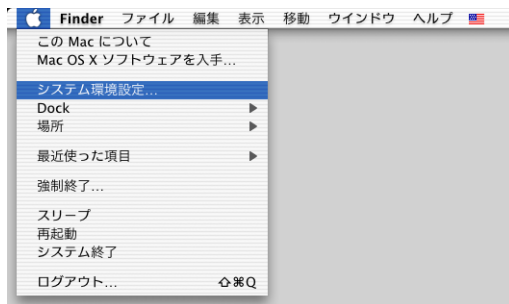
7. Macintosh のネットワークの設定

■ Mac OS X

Mac OS Xをご使用の場合、Macintosh のシステム(ネットワーク)を次のように設定します。
OS のバージョンによっては、以下の画面と若干異なる場合がありますが、基本操作は同じです。

《操作手順》

- ① アップルメニューの[システム環境設定...]を選択します。



[システム環境設定]ウィンドウが表示されます。



- ② [インターネットとネットワーク]欄の[ネットワーク]をクリックします。
[ネットワーク]ウィンドウが表示されます。
- ③ [場所] (OS のバージョンによっては[ネットワーク環境])で[自動]を選択します。

補足

[自動]以外の選択項目がある場合、たとえば、PowerBook など複数のネットワーク環境でも使用する場合など、複数の場所があるときは、beat サービスに接続する[場所] (OS のバージョンによっては[ネットワーク環境])を選択してください。

- ④ [表示]で[内蔵 Ethernet]を選択します。



- ⑤ [TCP/IP]タブをクリックします。
[TCP/IP]パネルが表示されます。

- ⑥ [設定] (OS のバージョンによっては[IPv4 を設定])で[DHCP サーバを参照]を選択します。



- ⑦ [PPPoE]タブをクリックします。
[PPPoE]パネルが表示されます。

- ⑧ [PPPoE を使って接続する]のチェックマークを外します。



- ⑨ [AppleTalk]タブをクリックします。

[AppleTalk]パネルが表示されます。

- ⑩ beat サービスに接続された Macintosh どうしで共有ファイルを使用する場合は、[AppleTalk 使用]にチェックマークを付けます。
Macintosh どうしで共有ファイルを使用しない場合は、[AppleTalk 使用]にチェックマークを付ける必要はありません。



- ⑪ [プロキシ]タブをクリックします。

[プロキシ]パネルが表示されます。

- ⑫ すべての項目のチェックマークを外してください。
(OS のバージョンによっては、下図と画面が異なります。すべての項目のチェックマークを外してください。)



- ⑬ [今すぐ適用] ボタンをクリックします。

補足

[今すぐ適用] ボタンをクリックしたあと、[TCP/IP] パネルを見ると、IP アドレスが DHCP サーバーより割り当てられたことを確認できます。

- ⑭ [ネットワーク] ウィンドウのクローズボタンをクリックします。

8. Macintosh の Web ブラウザーの設定

beat サービスを利用してインターネットのホームページを見るには、この章で説明する Web ブラウザーの設定が必要です。

Web ブラウザーにより設定方法が異なります。ご使用の Web ブラウザーの設定をしてください。

■ Safari 3.2.x、4.0.x

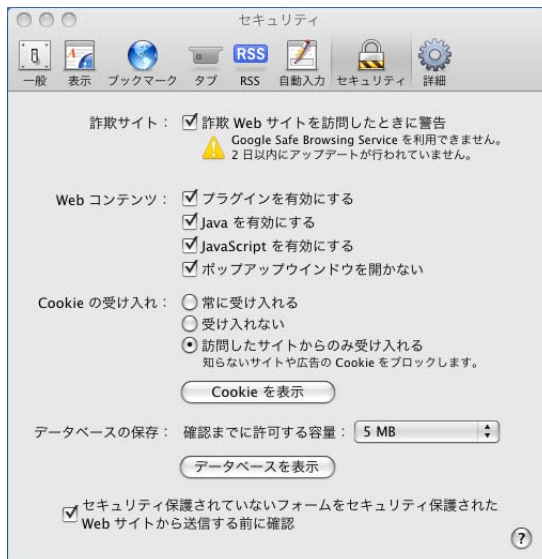
《操作手順》

- ① Safari を起動します。
- ② [Safari]メニューの[環境設定...]を選択します。



ダイアログボックスが表示されます。

- ③ [セキュリティ]をクリックして、[JavaScript を有効にする]にチェックマークを付けます。



- ④ ダイアログボックス左上の赤いクローズボタンをクリックします。

■ Firefox 3.x

《操作手順》

- ① Firefox を起動します。
- ② [Firefox]メニューの[環境設定]を選択します。



ダイアログボックスが表示されます。

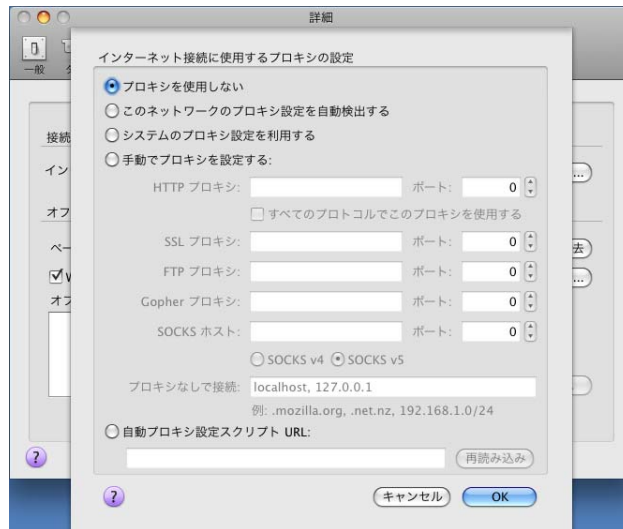
- ③ ダイアログボックスの各アイコンをクリックして、それぞれ次のように設定します。

●[詳細]の[ネットワーク]タブ

[接続]の[接続設定]ボタンをクリックします。

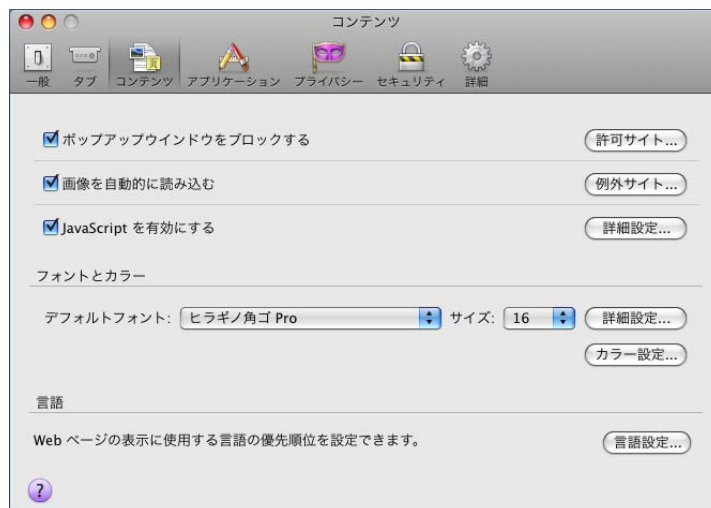


[プロキシを使用しない]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

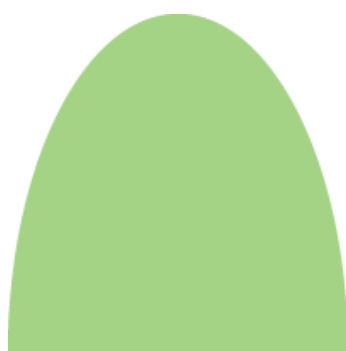


●[コンテンツ](JavaScript 設定)

[JavaScript を有効にする]にチェックマークを付けます。



④ ダイアログボックス左上の赤いクローズボタンをクリックします。



困ったときの対処編

9. 困ったときの対処の仕方

beat サービスをご利用中に使い方がわからなかったり、障害が発生したりした場合の対処方法について説明します。

■ オンラインヘルプ

beat-box には、beat-noc(ネットワークオペレーションセンター)との連携により、常に最新のオンラインヘルプが用意されています。

オンラインヘルプを参照するには、beat 設定ページの右上の[ヘルプ]をクリックしてください。beat 設定ページへアクセスするには、web ブラウザーから下記の URL を入力して Enter キーを押してください。

URL : <http://beat-box:8080/>

補足

お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、次のアドレスを入力してください。

<http://<beat-boxのLAN側IPアドレス>:8080/> (例:<http://192.168.0.1:8080/>)

■ beat コンタクトセンター

beat サービスでは、操作方法の問い合わせや障害復旧対処の窓口として「beat コンタクトセンター」を用意しています。また、障害内容によって、販売者の指定する技術者の派遣が必要と判断された場合、派遣を要請します。

■ beat-box と接続できない場合の対処

PC と beat-box が接続できていない場合は、オンラインヘルプを見ることはできません。本書の「beat-box と接続できない場合の対処」では、その解決方法について説明しています。症状やご使用の PC の OS に該当するページを参考に、PC を設定してください。これにより、オンラインヘルプを参照できるようになります。

■ beat お客様サポートサイト

beat お客様サポートサイトでは、beat サービスに関連する最新情報、困ったときの FAQ、メールでの問い合わせ先などの情報を掲載しています。

<http://www.net-beat.com/support/>

10. beat コンタクトセンターとは

beat コンタクトセンターは、beat サービスをご利用中に使い方がわからなかったり、障害が発生したりした場合の問い合わせ窓口です。

また、beat コンタクトセンターでは beat-noc(ネットワークオペレーションセンター)との連携によりお客様の利用環境を維持、管理しています。

■ beat コンタクトセンターからお客様へ

beat コンタクトセンターでは、beat-noc(ネットワークオペレーションセンター)からお客様の利用環境に関する障害情報を取得した場合に、お客様に対して障害発生の報告と状況確認のため、電話で連絡することがあります。その場合は、円滑な復旧作業のために以下の内容をお尋ねします。

- 1) ブロードバンド回線と回線終端装置(ADSL モデム、ONU など)の接続状態
- 2) 回線終端装置と beat-box の接続状態
- 3) 回線終端装置の表示
- 4) beat-box 前面の LED インジケータのステータスコードやランプの点灯状態

■ お客様から beat コンタクトセンターへ

お客様から beat コンタクトセンターをご利用になる場合は、以下の内容をお知らせください。

- 1) お客様の会社名、氏名、連絡先(住所、電話番号など)
- 2) beat-box のシリアル番号(6 桁の数値で、beat-box の上面と側面に貼付してあります)
- 3) beat-box 前面の LED インジケータのステータスコードやランプの点灯状態
- 4) 使用している PC の OS
- 5) 現在の状態(エラーメッセージやその状態になったときの操作内容)

(お客様へのお願い)

beat コンタクトセンターでは、beat サービス以外の問い合わせ(PC やソフトの操作、接続機器などの設置・設定など)につきましては、お応えできかねます。購入先の販売店、メーカーのサポートセンターへお問い合わせください。

beat コンタクトセンター(電話などでのお問い合わせ)

受付窓口 0120-126414 (電話)

 045-650-7666 (FAX)

受付時間 8:00～21:00 (平日)

 9:00～18:00 (土、日、祝日、12月31日～1月3日)

※ beat コンタクトセンターからのご連絡は 9:00 以降とさせていただきます。

※ お問い合わせやご依頼の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

(ご注意)

平日 18:00 以降と土、日、祝日の障害対応で販売者の指定する技術者の派遣が必要となった場合は、弊社の翌営業日の派遣要請となります。

beat お客様サポートサイト(オンラインでのお問い合わせや FAQ など)

<http://www.net-beat.com/support/>

11. beat-box と

接続できない場合の対処

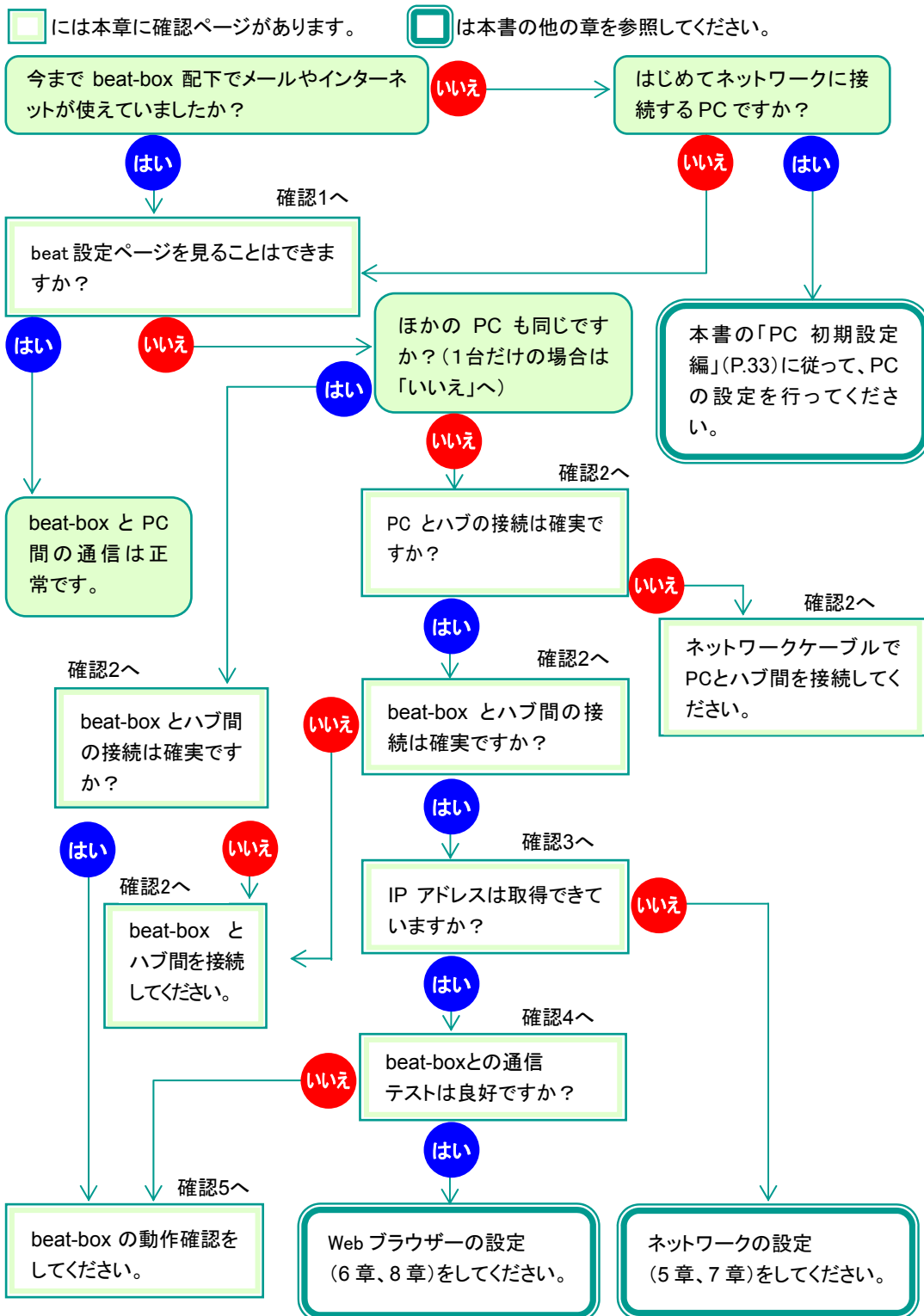
本章では、PC から beat-box へ接続するまでの対処方法について説明します。

PC の OS や Web ブラウザーによって対処方法で異なる部分があります。該当する OS または Web ブラウザーのページを参照してください。

■ 目次

- ・ トラブル解決フロー 84 ページ
- ・ 確認 1. beat設定ページを見る (Internet Explorer) 85 ページ
- ・ 確認 2. 機器の接続方法 86 ページ
- ・ 確認 3. IPアドレス取得状況の確認方法
 - Windows XP 87 ページ
 - Windows Vista 88 ページ
 - Windows 7 89 ページ
 - Mac OS X 90 ページ
- ・ 確認 4. beat-box との通信テスト方法
 - Windows XP 91 ページ
 - Windows Vista 92 ページ
 - Windows 7 93 ページ
 - Mac OS X 94 ページ
- ・ 確認 5. beat-boxのステータスコード 96 ページ
- ・ 控えておきましょう 98 ページ

■ トラブル解決フロー

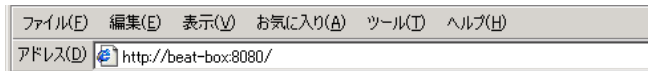


■ 確認 1. beat 設定ページを見る

Internet Explorer の場合

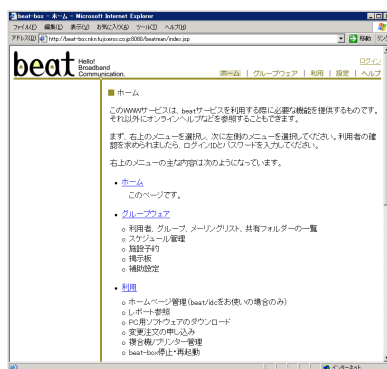
《操作手順》

- ① Internet Explorer を起動します。
- ② アドレス欄に“http://beat-box:8080/”を入力し、Enter キーを押します。

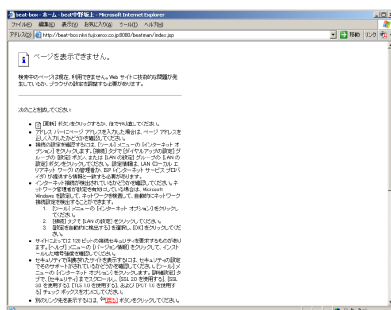


補足

お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。
 この場合、“http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/”
 (例: http://192.168.0.1:8080/) を入力してください。



上記のように画面が表示されれば、beat-box までの通信ができています。



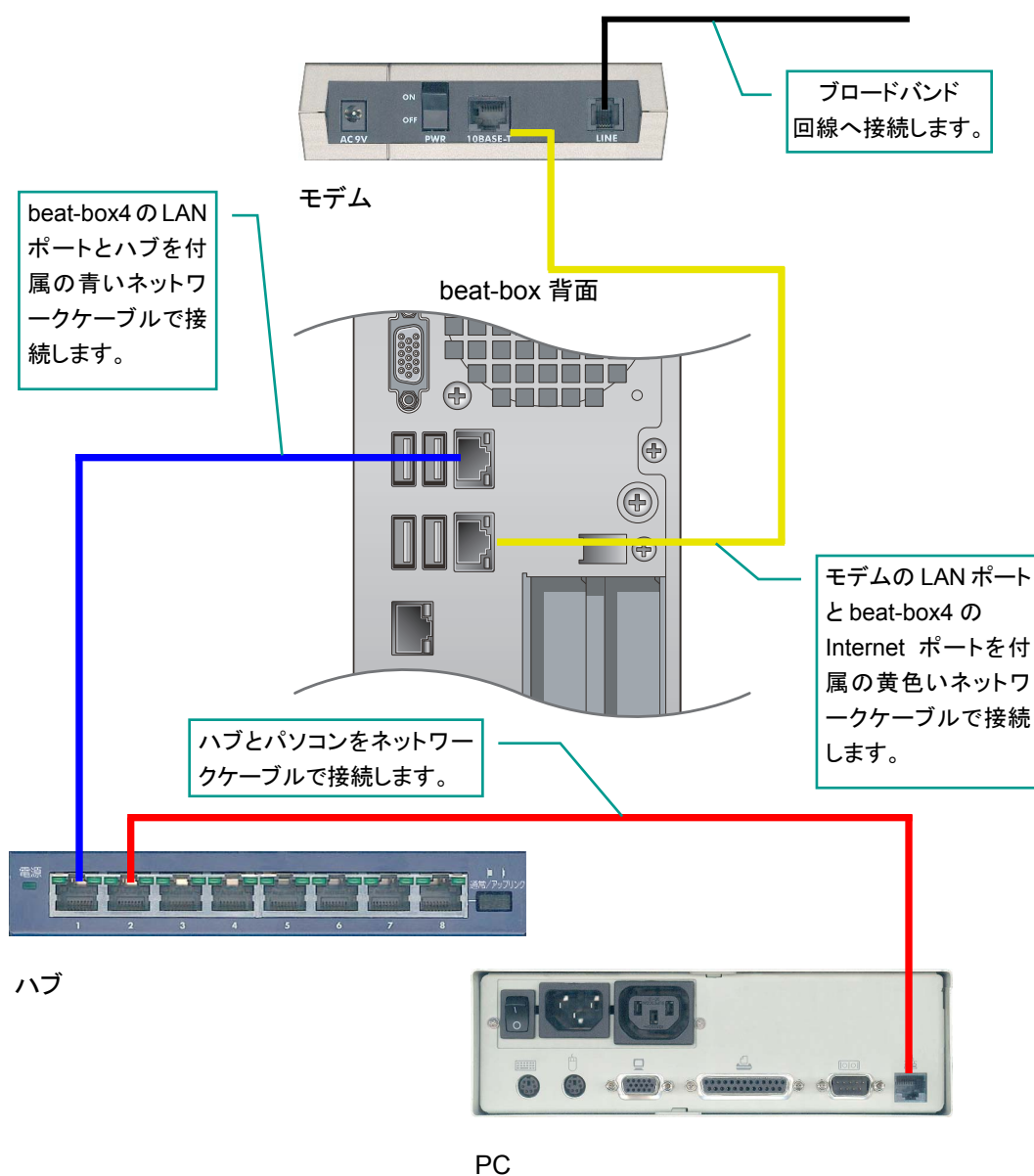
上記のような画面が表示されたときは正しく beat-box までの通信ができていないか、Web ブラウザーの設定に誤りがあります。

■ 確認 2. 機器の接続方法

PC を起動したときに次のメッセージが出る場合は、下記のいずれかの接続が外れている可能性があります。



接続図、機器の接続方法



■ 確認 3. IP アドレス取得状況の確認方法

Windows XP の場合

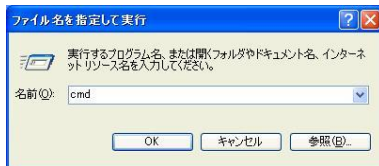
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



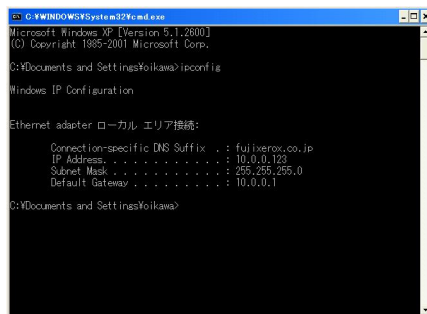
[ファイル名を指定して実行]ウィンドウが表示されます。

- ② [名前]欄に“cmd”と入力して、[OK]ボタンをクリックします。



MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。

- ③ MS-DOS プロンプトに、“ipconfig”と入力して、Enter キーを押します。



MS-DOS プロンプトウィンドウにある[IP Address]、[Subnet Mask]、[Default Gateway]にアドレスが表示されていれば、正しく IP アドレスを取得できています。

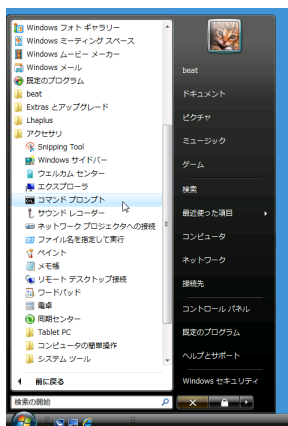
補足

[IP アドレス]が 0.0.0.0 になっているときは、“ipconfig /renew”と入力して Enter キーを押し、IP アドレスを取得し直します。取得し直しても[IP アドレス]の数値が変わらないときは、機器との接続、ネットワークの設定を確認してください。

Windows Vista の場合

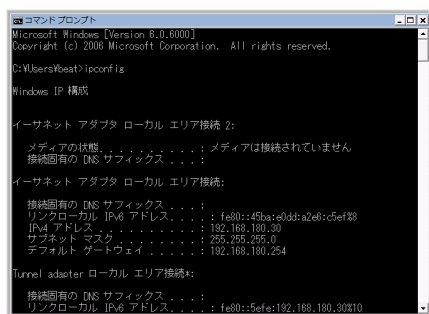
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタン、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[コマンド プロンプト]を順にクリックします。



MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。

- ② MS-DOS プロンプトに、“ipconfig”と入力して、Enter キーを押します。



MS-DOS プロンプトウィンドウにある[IPv4 アドレス]、[サブネット マスク]、[デフォルト ゲートウェイ]にアドレスが表示されていれば、正しく IP アドレスを取得できています。

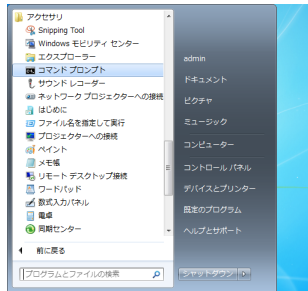
補足

[IPv4 アドレス]が 0.0.0.0 になっているときは、“ipconfig /renew”と入力して Enter キーを押し、IP アドレスを取得し直します。取得し直しても[IP アドレス]の数値が変わらないときは、機器との接続、ネットワークの設定を確認してください。

Windows 7 の場合

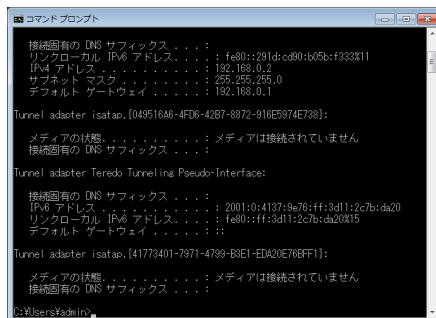
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタン、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[コマンド プロンプト]を順にクリックします。



MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。

- ② MS-DOS プロンプトに、“ipconfig”と入力して、Enter キーを押します。



MS-DOS プロンプトウィンドウにある[IPv4 アドレス]、[サブネット マスク]、[デフォルト ゲートウェイ]にアドレスが表示されていれば、正しく IP アドレスを取得できています。

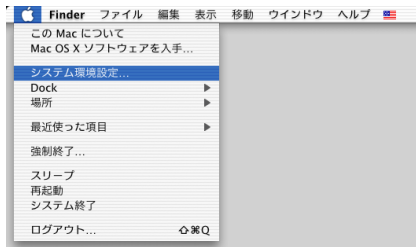
補足

[IPv4 アドレス]が0.0.0.0になっているときは、“ipconfig /renew”と入力して Enter キーを押し、IP アドレスを取得し直します。取得し直しても[IP アドレス]の数値が変わらないときは、機器との接続、ネットワークの設定を確認してください。

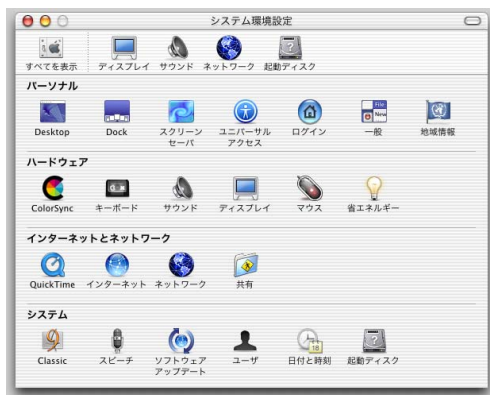
Mac OS X の場合

《操作手順》

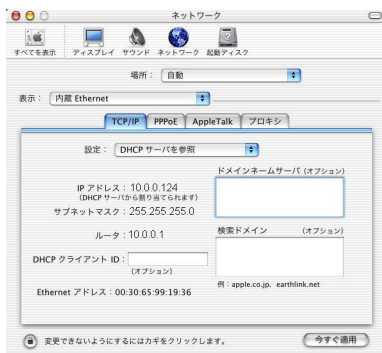
- ① アップルメニューの[システム環境設定]を選択します。



[システム環境設定]ウィンドウが表示されます。



- ② [インターネットとネットワーク]の[ネットワーク]をクリックします。
[ネットワーク]ウィンドウが表示されます。



- ③ [TCP/IP]タブをクリックします。[TCP/IP]パネルが表示されます。
IP アドレスが取得できているときは、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ルーター]にアドレスが入ります。

■ 確認 4. beat-box との通信テスト方法

Windows XP の場合

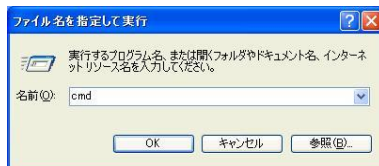
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



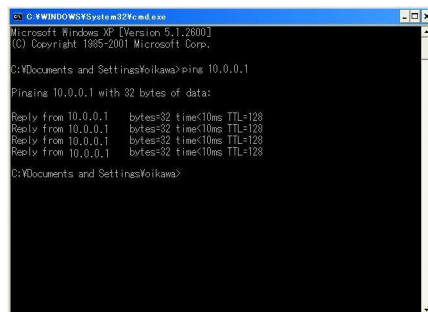
[ファイル名を指定して実行]ウィンドウが表示されます。

- ② [名前]欄に“cmd”と入力して、[OK]ボタンをクリックします。



MS-DOS プromptウィンドウが表示されます。

- ③ MS-DOS プromptに、“ping <beat-boxドメイン>”(または、“ping <beat-box の LAN 側 IP アドレス>”)を入力して、Enter キーを押します。

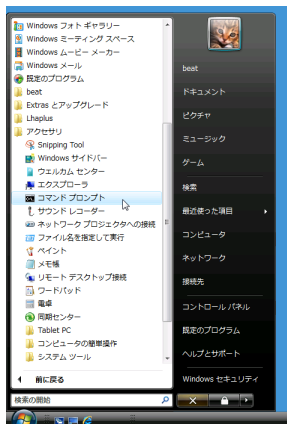


図のように「Reply from x.x.x.x bytes=32 time<10ms TTL=128」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「Destination host unreachable、Request timed out」などと表示されたときは、ネットワークの設定、接続を確認してください。

Windows Vista の場合

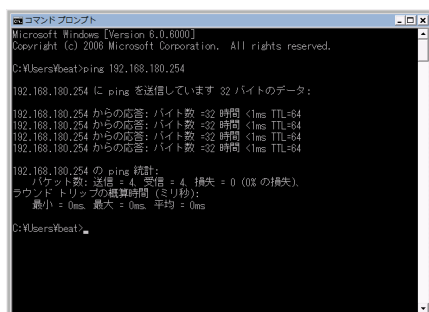
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタン、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[コマンド プロンプト] を順にクリックします。



コマンド プロンプトウィンドウが表示されます。

- ② コマンド プロンプトに、“ping <beat-box ドメイン>” (または、“ping <beat-box の LAN 側 IP アドレス>”)を入力して、Enter キーを押します。

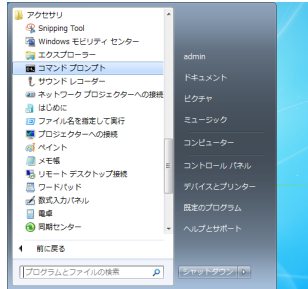


図のように「×.×.×.× からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=64」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「要求がタイムアウトしました」などと表示されたときは、ネットワークの設定、接続を確認してください。

Windows 7 の場合

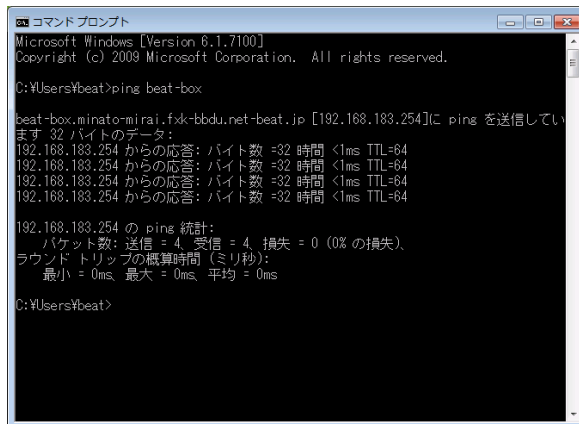
《操作手順》

- ① Windows の[スタート]ボタン、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[コマンド プロンプト] を順にクリックします。



コマンド プロンプトウィンドウが表示されます。

- ② コマンド プロンプトに、“ping <beat-box ドメイン>”(または、“ping <beat-box の LAN 側 IP アドレス>”)を入力して、Enter キーを押します。

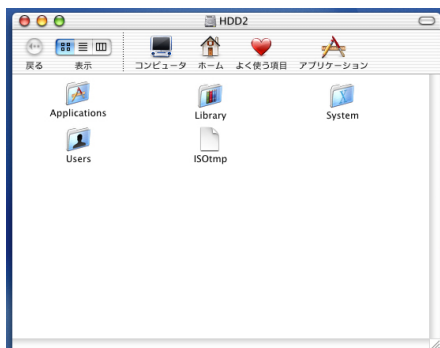


図のように「×.×.×.× からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=64」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「要求がタイムアウトしました」などと表示されたときは、ネットワークの設定、接続を確認してください。

Mac OS X の場合

《操作手順》

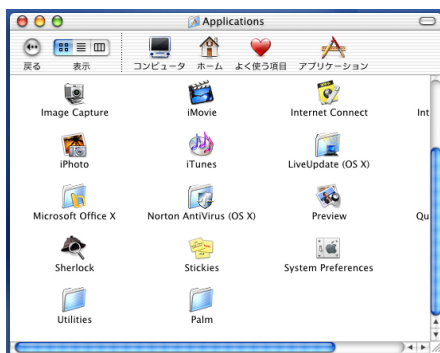
- ① Macintosh のハードディスクを開きます。ハードディスク名は、お客様の PC によって異なります。



補足

Mac OS X のバージョンによっては、下記の操作手順におけるアイコンの表記やタイトルが英語であったり日本語であったりします。その場合は、適宜読み替えて操作してください。

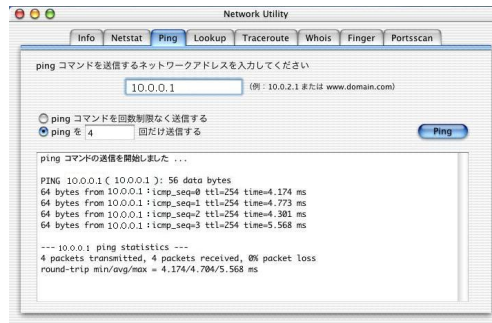
- ② ハードディスク内の[アプリケーション(Application)]をダブルクリックします。
[アプリケーション(Application)]ウィンドウが表示されます。



- ③ [アプリケーション]ウィンドウ内の[ユーティリティ(Utilities)]をダブルクリックします。
[ユーティリティ(Utilities)]ウィンドウが表示されます。



- ④ [ユーティリティ(Utilities)]ウィンドウ内の[Network Utility]をダブルクリックします。
[Network Utility]ウィンドウが表示されます。
- ⑤ [Ping]タブをクリックします。

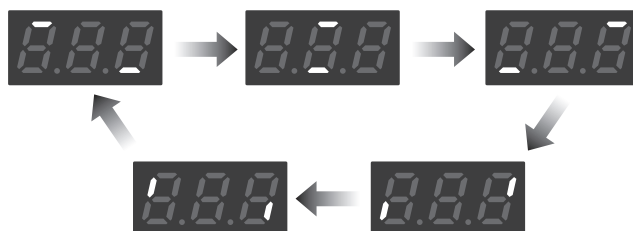


- ⑥ [ping コマンドを送信するネットワークアドレスを入力してください]の欄に、beat-box の IP アドレス(例:「192.168.0.1」)を入力します。入力が終了したら、[Ping]のボタンをクリックします。
- 図のように「ttl=254 time=4.174ms」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「100% packet loss」などと表示されたときは、ネットワークの設定、接続を確認してください。

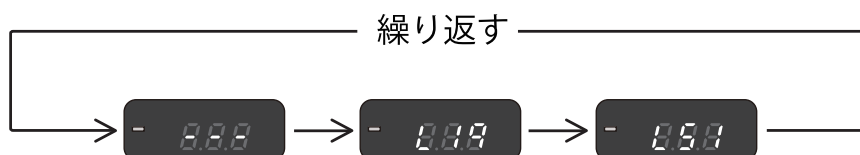
■ 確認 5. beat-box のステータスコード

ステータスコード

ステータスコードは、beat-box の動作状態を表します。正常動作時は、ステータスコードを表示する LED ランプの外周が、時計回りのアニメーション表示をします。



異常時には、ステータスコードを表示します。ステータスコードを表示する場合は、次に示すように、まず“- - -”を表示し、次に発生している1つ以上のステータスコードを順に表示するというサイクルを繰り返します。



主なステータスコード

コード	ステータス	対処
外周が時計回りのアニメーション表示	正常動作	不要
Axx Pxx	beat-box が起動中	長時間(15 分以上)表示される場合は、beat コンタクトセンターにご連絡ください。
Exx Hxx	beat-box のリソース不足 beat-box のハードウェア障害	beat コンタクトセンターにご連絡ください。
J01	副回線でインターネット接続中	「beat 回線二重化設定サービス(オプション)」をご契約の beat-box にだけ表示されます。
L13	主回線(Internet ポート)のネットワークケーブル接続不良	ネットワークケーブルが正しく接続されているか、確認してください。
J13	副回線(オプションポート)のネットワークケーブル接続不良	
L14	LAN(LAN ポート)のネットワークケーブル接続不良	

L15	PPP による DHCP 不能	回線終端装置 (ADSL モデム・ONU など) またはルーターを再起動し、10 分ほど様子を見てください。 それでも復帰しない場合は、本書に記載されている電源オフ／電源オンの方法に従って、beat-box4 を再起動してください。 補足 「Lxx」のステータスコードは、ご契約の ISP、またはインターネット接続回線のサービスに障害が発生している場合にも表示されます。 「Jxx」のステータスコードは、「beat 回線二重化設定サービス (オプション)」をご契約の beat-box で、副回線に通信障害が発生している場合に表示されます。 参照 「beat-box4 の電源オフの方法」(P.5) 「beat-box4 の電源オンの方法」(P.7)
J15		
L16	beat-box が DHCP で IP アドレスを受け取れない	
J16		
L17	beat-box が固定 IP アドレスで通信できない	
J17		
L19	beat-box から先、ISP までのいずれかの障害	
J19		
L20	ルーターから先、インターネットまでのいずれかの障害	
J20		
L21	ISP 障害 (認証時)	ハブ拠点にだけ表示されます。スポーク拠点に通信障害が発生していて接続できない場合のほか、自拠点に通信障害が発生している場合にも、他のコードと共に表示されます。 スポーク拠点およびブランチ拠点にだけ表示されます。ハブ拠点に通信障害が発生していて接続できない場合のほか、自拠点に通信障害が発生している場合にも、他のコードと共に表示されます。
J21		
L22	ISP 障害または beat-noc 障害	
J22		
L23	ISP 認証失敗	
J23		
L24	ISP と beat-box の固定 IP アドレス不一致	
J24		
L25	ISP 障害 (非認証時)	
J25		
L26	ISP とインターネット間の接続障害	beat コンタクトセンターにご連絡ください。
J26		
L27	beat-noc とインターネット間の接続障害	
L50	スポーク拠点応答なし	
L51	ハブ拠点応答なし	
その他のコード	その他の異常状態	

■ 控えておきましょう

● beat-box の設定

設定項目	設定内容	設定例
IP アドレス	_____	10.0.0.1
サブネットマスク	_____	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	_____ (通常は beat-box のアドレスになります)	10.0.0.1
DNS	_____ (通常は beat-box のアドレスになります)	10.0.0.1
ドメイン名	_____	fujixerox.co.jp

● 電子メールの設定

設定項目	設定内容	設定例
受信 (POP) サーバー	_____	sibuya.fujixerox.co.jp
送信 (SMTP) サーバー	_____	sibuya.fujixerox.co.jp

(注: 受信・送信サーバーとも、beat 設定ページのメールクライアント設定で表示されます)

● その他サーバーの設定

設定項目	設定内容	設定例
プロキシサーバー	設定しません	
ニュース (NNTP) サーバー	設定しません	

● その他

項目	連絡先	担当者
ブロードバンドの通信会社		

項目	メーカー名／型式・型番	連絡先
回線機器 (ADSL モデムや ONU など)		

項目	ID	パスワード
ISP の設定		

索引

【A】

ApeosPort 連携 23

【B】

Battery 3

beat PC クライアントアンチウイルスサービス 19

beat ケータイリモートサービス 17

beat セキュリティーキーサービス 20

beat ハブ拡張サービス 11

beat ブランチサービス 12

beat モバイルメールサービス 17

beat リモートアクセスサービス 17

beat 回線二重化設定サービス 22

beat 複数拠点接続サービス 11

beat/asp サービス for サイボウズ(R) 17

beat/asp サービス for サイボウズ 14

beat/basic サービス 11

beat/idc ホスティングサービス 14

beat/idc によるホームページ公開 21

beat/idc によるメール送受信 21

beat-box 14

beat-box4 の電源オフの方法 5

beat-box4 の電源オンの方法 7

beat-box4 前面 3

beat-box4 背面 4

beat-box との通信テスト方法 91

beat-box と接続できない場合の対処 80, 83

beat-box のステータスコード 96

beat-box 故障時の修理 22

beat-client 14

beat-noc 14

beat お客様サポートサイト 80

beat コンタクトセンター 14, 80, 81

beat コンタクトセンターからお客様へ 81

beat コンタクトセンターとは 81

beat コンタクトセンターによるサポート 23

beat サービスの紹介 10

beat サービスの特長 15

beat サービスの機能 15

beat リモートアクセスサービス 12

beat 設定ページへの接続法 26

beat 設定ページを見る 85

【D】

DNS(ドメインネームサービス) 15

【E】

E-QIX 連携 24

【F】

Firefox 3.x 69, 76

Force Power Off スイッチ 3

【H】

Hard Disk 3

【I】

Internet Explorer 6.x 57

Internet Explorer 7.x 61

Internet Explorer 8.x 65

INTERNET ポート 4

IPS 20

IP アドレスの割当 15

IP アドレス取得状況の確認方法 87

【L】

LAN ポート 4

LED インジケーター 3

LED ランプ(黄色) 3

LED ランプ(緑色) 3

LED ランプ(橙色) 3

【M】

Mac OS X 71

Macintosh のネットワークの設定 71

Macintosh の Web ブラウザーの設定 75

Maintenance スイッチ 3

【N】

NOC の多重化 21

【P】

P2P ソフトなどによる通信の遮断 20

PC サポートソフトウェア	31
PC の接続	25
PC 初期設定の概要	34
PC 上のファイルの自動バックアップ	22

【R】

RAID1 によるハードディスクの二重化	21
----------------------	----

【S】

Safari 3.2.x	75
Safari 4.0.x	75

【V】

VPN	10
-----	----

【W】

Warning	3
Web ブラウザー	57
Windows 7	49
Windows 7 のネットワークの設定	49
Windows 7 のワークグループの設定	54
Windows Vista	42
Windows Vista のネットワークの設定	42
Windows Vista のワークグループの設定	46
Windows XP	36
Windows XP のネットワークの設定	36
Windows XP のワークグループの設定	40
Windows のネットワークの設定	36
Windows の Web ブラウザーの設定	57
WWW アクセス	16, 29
WWW アクセスなどのウイルスチェック	19
WWW による簡単な設定	23

【あ】

安心ファクスサービス	23
安定化対策	20

【い】

イーサネットポート	4
-----------	---

【う】

運用と利用	22
-------	----

【お】

応用ネットワークサービス	16
--------------	----

お客様から beat コンタクトセンターへ	81
オプションポート	4
オンデマンドサービス for DocuWorks	24
オンラインヘルプ	80

【か】

外部メール関係追加	27
各部の名称と働き	2
簡易グループウェア	17, 31

【き】

機器の接続方法	86
起動の時間	8
基本ネットワークサービス	15
強制停止による電源オフ	7
共有機器の接続	27
共有フォルダー	17, 29
共有フォルダーバックアップ	22
拠点	11

【く】

クラウドマーク社判定サーバー	14
グループ	17, 30

【け】

ケータイリモートサービス	24
--------------	----

【こ】

困ったときの対処の仕方	80
コンテンツフィルタサービス	20

【さ】

サービス概要	11
--------	----

【し】

時刻合わせ	22
システム構成	14
自動監視	21
社内メールの安全確保	18
侵入防止システム	20

【す】

スパイウェア防止	19
スポーク拠点	11

【せ】		【ふ】	
セキュリティスロット.....	4	ファイアウォール.....	18
セキュリティ対策.....	18	複合機/プリンター管理.....	24
設定内容.....	35	複合機やプリンターとの連携機能.....	23
設定の前に.....	35	複雑な設定作業の自動化.....	23
【そ】		複数拠点接続サービス.....	13
ソフトウェア自動アップデート.....	20	不正な通信対策.....	20
【た】		ランチサービス.....	13
対応 OS.....	34	ランチハブ拠点.....	11
【て】		文書ストレージ.....	23
停電対応充電電池.....	21	文書ストレージサービス.....	14, 18
電源オフ時の beat-box4 の状態.....	2	【ほ】	
電源オフの方法.....	5	ホームページ公開.....	30
電源コード差込口.....	4	ホームページの作成.....	16
電源スイッチ.....	3	【み】	
電源ランプ(緑色).....	3	未許可 PC の接続防止.....	18
電子変更注文.....	23	【め】	
電子メール.....	27	迷惑メール対策.....	19
【と】		メーリングリスト.....	16, 29
動作温度.....	8	メールクライアント設定.....	28
トラブル解決フロー.....	84	メールのウイルスチェック.....	19
【ね】		メールの送受信.....	16
ネットワーク管理.....	15	【も】	
ネットワークの設定.....	36, 71	目的.....	10
【は】		【ら】	
パケットフィルタリング.....	20	ラベル.....	3
パスワードポリシー.....	18	【り】	
ハブ拠点.....	11	利用者や beat-box 責任者の登録.....	26
【ひ】		利用ステップ.....	25
控えておきましょう.....	98	履歴表示.....	23
		【れ】	
		レポートイング.....	31

●サポート情報、最新情報の入手先

インターネットホームページで製品情報を提供しています。

<http://www.net-beat.com/>

beat サービス ユーザーズガイド

著作者 富士ゼロックス株式会社

発行者 富士ゼロックス株式会社

発行年月 2011 年 1 月

(管理 No. ME5106J1-1)

Printed in Japan

— beatコンタクトセンター —

受付窓口 0120-126414 (電話)
045-650-7666 (FAX)
受付時間 8:00 ~ 21:00 (平日)
9:00 ~ 18:00 (土、日、祝日、
12月31日~1月3日)

※beatコンタクトセンターからのご連絡は
9:00以降とさせていただきます。

※お問い合わせやご依頼の内容を正確に把握
するため、また後に対応状況を確認するため、
通話を録音させていただく場合がございます。
あらかじめご了承ください。

— beatお客様サポートサイト —

<http://www.net-beat.com/support/>